

荒尾市地区別計画

令和2年度－令和7年度

荒尾地区協議会	万田地区協議会
万田中央地区協議会	井手川地区協議会
中央地区協議会	緑ヶ丘地区協議会
平井地区協議会	府本地区協議会
八幡地区協議会	有明地区協議会
清里地区協議会	桜山地区協議会

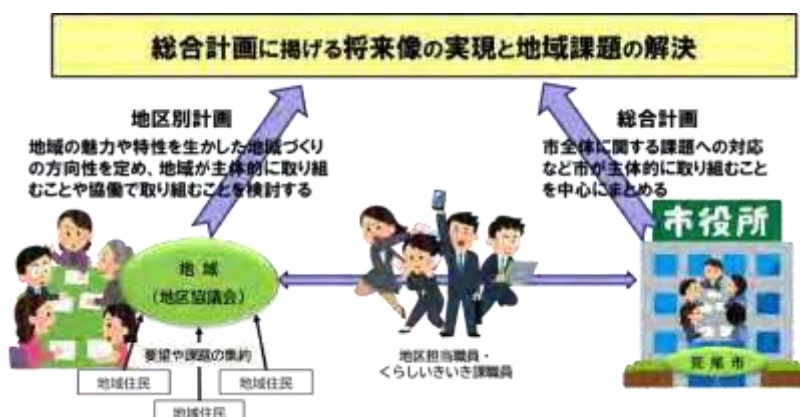
はじめに

荒尾市では、平成 15 年度に「荒尾市協働のまちづくり推進指針」が策定され、市民と行政による協働のまちづくりの具体化に向けた取組みを開始した。最初の取組みとして、新たなコミュニティの形成と住民自治の充実を図ることを目的に「地域元気づくり事業」を推進しており、概ね小学校区単位で、市民が自ら考え行う、地域の元気を創出するまちづくり活動を展開してきたところである。

その後、平成 24 年度には「荒尾市協働の地域づくり推進条例」が制定され、各地区に地区協議会を設立するとともに、地域づくりに関し各地区を代表し、行政と協働して地域づくりを推進する団体として認定を受けたことで、組織の充実や発展を図ってきた。地区協議会を地区の代表組織として位置づけたことで、多くの地区で定例会等が開催されるようになり、地区内の情報共有や連携強化が図られ、効果的に事業が展開できるようになってきている。

これらの取組みにより、地域内でのコミュニティ意識の醸成や市民主体による地域づくり活動の充実などの成果が出てきているところであるが、一方で、少子高齢化や共働き世帯の増加などにより、人材不足やメンバーの固定化が発生しているほか、地域の環境整備や地域福祉に関することなど、地域における課題に対し十分に対応しきれていないという状況も出てきている。これらの地域の課題を解決するためには、地域住民同士・地域と行政などで課題認識を共有し、役割分担のもと対策を検討することが重要であることから、総合計画の策定に合わせ、地域ごとの課題や特性、地域の目指す姿や取組みの方向性などを地区別計画としてまとめることとした。策定に当たっては、地区ごとに 3 回ずつワークショップを行い、地域住民が抱える困りごとを広く集約することで地域の課題を見つめ直すとともに、目指す姿やその実現に向けた取組みなどについて地域住民同士で対話を行い、多様な意見を反映させたものとしている。

本計画は、ワークショップの結果や地域住民の意見を踏まえて策定したものであり、総合計画と一体的に推進することで地域課題の解決を目指すとともに、PDCA サイクルの確立を通じて、持続可能な地域づくりを行うための地域の経営力の強化を目指すものである。本計画に基づき実施する具体的な取組みについては、各地区協議会を中心に継続して検討しながら、順次実施していくこととする。



荒尾地区 全体の方針

地区の課題を解決し、資源を生かしてどんな地域を目指すか。ワークショップでは住民の皆さんが思い描く荒尾地区の未来について意見を出してもらいました。目指す姿の実現に向け引き続き住民で意見を出し合いながら、今後、具体的な取組みを考えていきます。活動への積極的な参加など取組みへのご協力をお願いします。

「住みやすく」「交流が活発」なまち



目指す姿 1

「交流が活発」なまち

交流が活発な地域になるためには、世代間、区間のコミュニケーションの推進やさまざまなイベントの実施、ボランティアの増加などが必要です。それにより、高齢者と子どもたちの交流が進み、住民同士がボランティアで助け合う地域を目指します。



目指す姿 2

「暮らしやすい」まち

暮らしやすい地域の形成のために、交通の便や買い物場所などのインフラ整備や企業誘致による経済基盤の強化が求められています。その上で住民自身が自ら動けるよう、健康意識を持ち、お互いに助け合えるよう防犯意識を高めていく活動を行います。



目指す姿 3

「地域資源を活用する」まち

史跡のほかにも、海や空き地などを地域の資源と考えれば、活性化のためのさまざまな活用が可能です。地域の散歩道や公園の整備、活用のほか、空き家をどのように活用できるかを考える必要があります。



目指す姿 4

「教育に力をいれる」まち

教育に力を入れることは、子育てしやすい地区づくりにつながり、人口増加、地域活性に発展します。子育て世代の支援と交流だけでなく、子どもを支援し、巻き込んでいく活動が求められています。



注) 小地域単位でコーホート要因法による推計を実施「準移動率」「子供女性比」「0-4歳性比」の各パラメーターは国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口の仮定値(荒尾市)を使用
人口推計は平成27年国勢調査、世帯推計は2015年が平成27年国勢調査、2020年以降が平成22年国勢調査に基づく
資料) 国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツールV2(H27国調対応版)」及び「将来人口・世帯予測プログラム(バージョン1.3)」を用いた計算結果を加工して作成

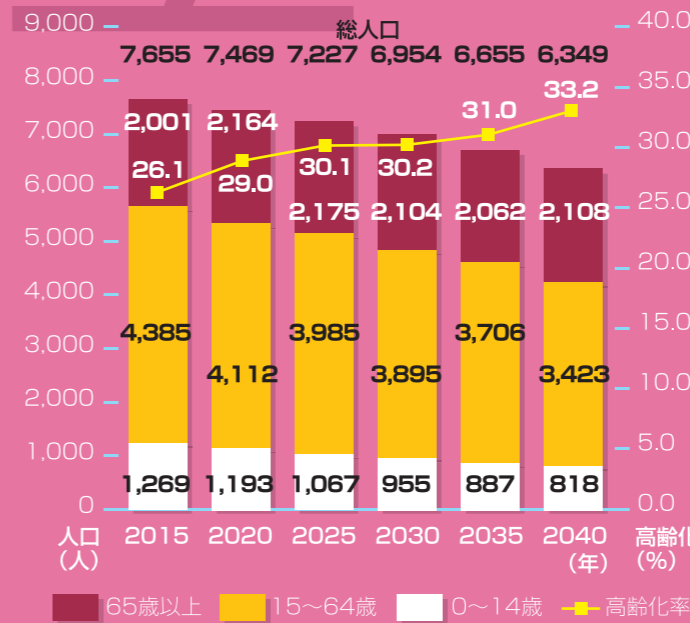
令和2年度～令和7年度 荒尾市地区別計画

荒尾地区 Arao area

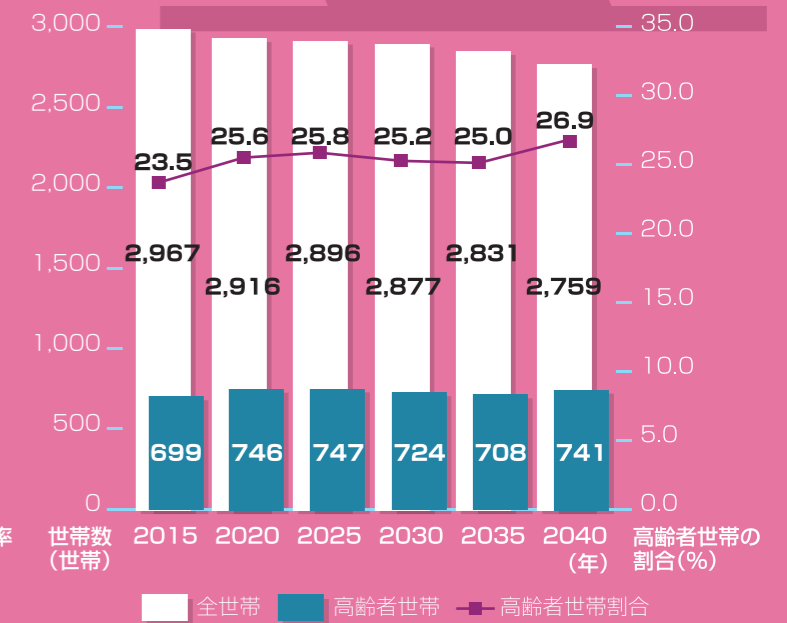
有明海に面し、荒尾市役所がある荒尾地区。地域には、鎌倉將軍三代の塔や大イチョウが保存されている浄業寺、日本近代史に大きな足跡を残した宮崎兄弟の生家や荒尾二造資料館などがあります。地域活動も盛んで、中でも子どもを含む地域住民が一体となって実施している「音と光の祭典」は、毎年多くの参加者で賑わっています。



■年齢別人口推計



■世帯増減数推移



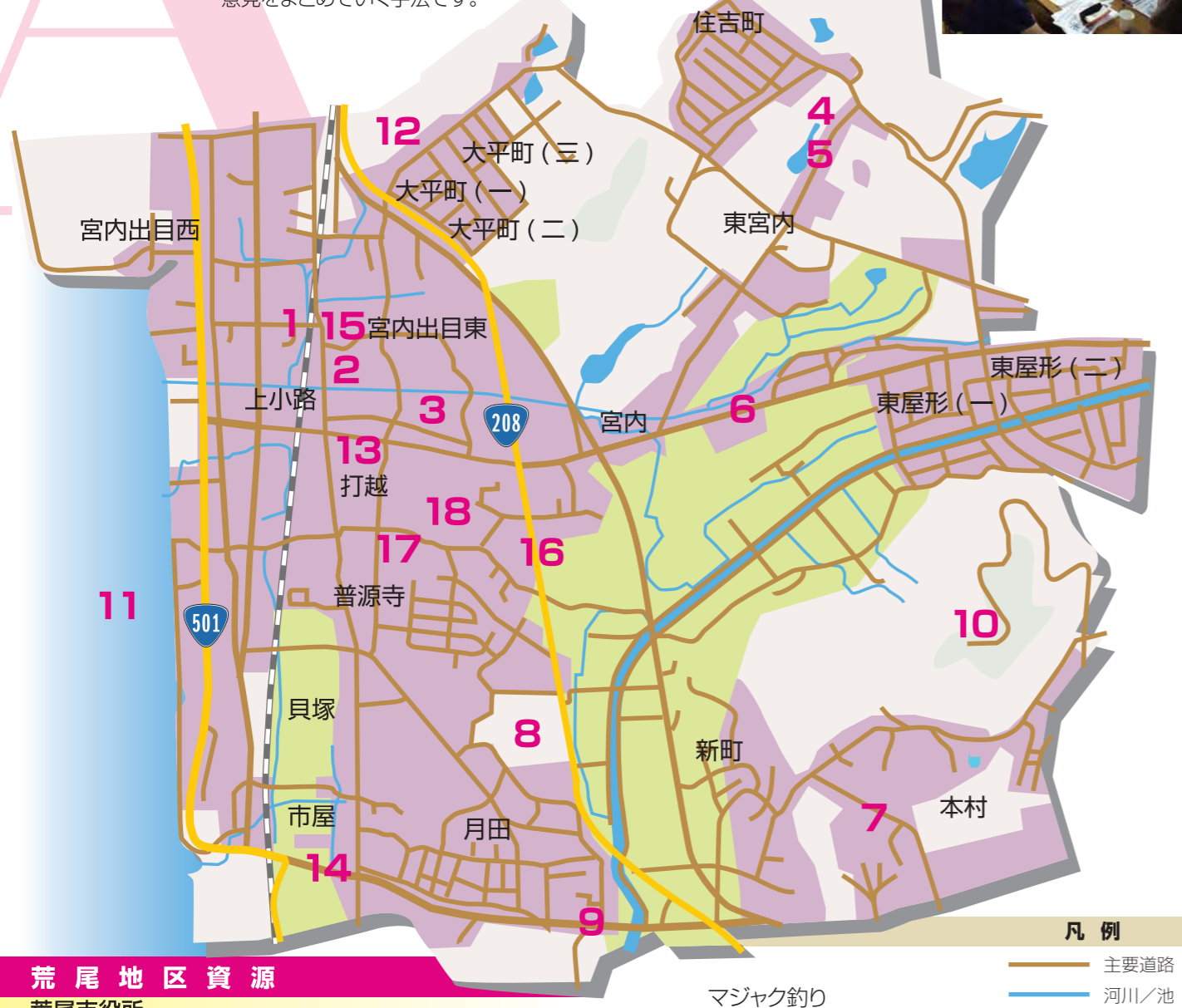
人口は2020年以降も減少する見込みで、2040年には、1,120人減少し6,349人となる見込み。併せて高齢化率が33.2%となる見込み。
人口減少に伴い、2040年までに世帯数も減少する見込み(▲157世帯)。

荒尾地区 資源マップ

荒尾地区で開催したワークショップで、地区の自慢を地図に落とし込みました。点在している資源は、地区の皆さんの暮らしと心を支えています。

ワークショップとは

さまざまな立場の人が集まって、自由に意見を出し合い、お互いの考えを尊重しながら意見をまとめていく手法です。



凡例

- 主要道路
- 河川/池
- 宅地など
- 田・畑など

荒尾地区資源

- 1 荒尾市役所
- 2 宮崎兄弟の生家・音と光の祭典
- 3 熊野神社・子ども神楽
- 4 東宮内公民館・囲碁クラブ
- 5 自治会加入率98%(東宮内)
- 6 グリーンアベニュー
- 7 荒尾市民病院
- 8 荒尾海陽中学校
- 9 花のみち
- 10 屋形山・展望台・ウォーキングコース
- 11 有明海 荒尾漁協・マジック釣り大会・海のウォーキングコース
- 12 明栄寺・観音像
- 13 往相寺
- 14 シュロの街路樹
- 15 浄業寺・大イチョウ
- 16 自転車専用道路
- 17 荒尾二造資料館
- 18 荒尾第一小学校



マジック釣り



宮崎兄弟の生家



荒尾二造資料館

荒尾地区 魅力と課題

荒尾地区の皆さんと、地区について考えたワークショップでは、日頃から感じている、地区の困りごと(課題)や地区の自慢(魅力)について、意見を出し合いました。多くのご意見をいただいた中で、地区の皆さんが特に重視している課題や、地区ならではの魅力と考えているものをあげてもらいました。

課題

- ### 1 空き家が多い

 - ・空き家の増加、放置が多い。
 - ・雑草増加の原因になっている。
 - ・捨て犬、捨て猫が多い
 - ・イノシシがでる

荒尾地区のH30年時点の空き家数は114軒(目視調査で空き家と判定された家)。そのうち56軒は、解体が必要、または解体が今後必要となる「老朽危険」空き家です。空き家の増加が雑草増加、捨て犬、捨て猫の増加などの原因になっているという意見がでました。
- ### 2 自治会の参加が少ない

 - ・自治会役員のなり手が少ない
 - ・イベント参加者(特に若者)が少ない

「地域活動が盛ん」という意識はありますが、活動を支える役員や、参加者の減少は他地区同様課題としてあがりました。特に若い人の参加がなくなり、地域のつながりが薄くなっていることが心配されています。
- ### 3 地域資源が活用されていない

 - ・宮崎兄弟の生家の表示が分かりにくい
 - ・空き地が活用されていない

荒尾地域の誇りである「宮崎兄弟の生家」。貴重な資源が保存されていますが、孫文の表示がなかったり、入口の誘導看板が分かりにくいなどの問題を抱えています。そのほか、荒尾二造資料館や地域の空き地などの活用も検討事項です。
- ### 4 その他

 - ・バスのダイヤが少ない上、免許返納支援も少ない
 - ・燃えるゴミの収集場所が汚くなっている

地域のインフラを支える交通網の不足やゴミの収集場所、収集のマナーなどについても課題になりました。

魅力

- ### 1 誇れる資源がある

 - ・宮崎兄弟の生家や荒尾二造資料館がある
 - ・海(マジック釣りなど)

地域イベントの会場にもなっている宮崎兄弟の生家は、地域住民の誇りとなっています。そのほか、有明海と有明海を活用したイベントも開催されており、地域活性のためにより活用するアイデアが求められています。
- ### 2 地域活動が盛ん

 - ・花いっぱい運動を頑張っている
 - ・音と光の祭典など地域活動が盛ん
 - ・公民館活動が盛ん

学校と地域のつながりが強いと感じる住民が多いのは荒尾地区の特徴です。子ども会活動も盛んで、地域行事として始まった「音と光の祭典」は地域の子どもと大人が一緒になって盛り上げています。高齢化率は26.1%と荒尾市で最も低くなっています。



音と光の祭典



どんごや

花のみち

- ### 3 環境がいい

 - ・防犯灯が充実
 - ・飲食店が多い
 - ・自転車道路がある

市役所周辺の市街地にある荒尾地区は商店が多く、防犯灯などの環境整備もすすんでいます。

万田地区 全体の方針

地区の課題を解決し、資源を生かしてどんな地域を目指すか。ワークショップでは住民の皆さんが思い描く万田地区の未来について意見を出してもらいました。目指す姿の実現に向け引き続き住民で意見を出し合いながら、今後、具体的な取組みを考えていきます。活動への積極的な参加など取組みへのご協力をお願いします。

荒尾駅を中心にした活気あるまち



目指す姿 1

「便利で快適」なまち

荒尾駅を中心に発展してきた万田地区。荒尾駅をより快適にし、地区にとって1つのにぎわいの拠点としていくことが求められています。それにより、商店街に新しい店舗が入り、地域でほしいものが購入できるまちを目指します。



目指す姿 2

「災害・犯罪に強い」まち

熊本地震の影響は大きくなかったものの、地域一層となつての防災、防犯活動は重要です。ネットワークや見守り活動で、住民が自ら地域を守り、いざというときのつながりをつくる取組みが求められます。



目指す姿 3

「にぎわいがある」まち

荒尾市民にとっても地域の誇りとなっている「こくんぞさん」など、多くのお祭りがある万田地区は、大小問わず、お祭りや行事のさらなる活性化を目指します。また、地域の魅力を次の世代につないでいく取組みも進めていきます。



目指す姿 4

「つながりがある」まち

元気な地域をつくるために必要な「つながり」。万田地区では子どもを大切に、高齢者を支えることで、持続的な「つながり」を作っていきます。



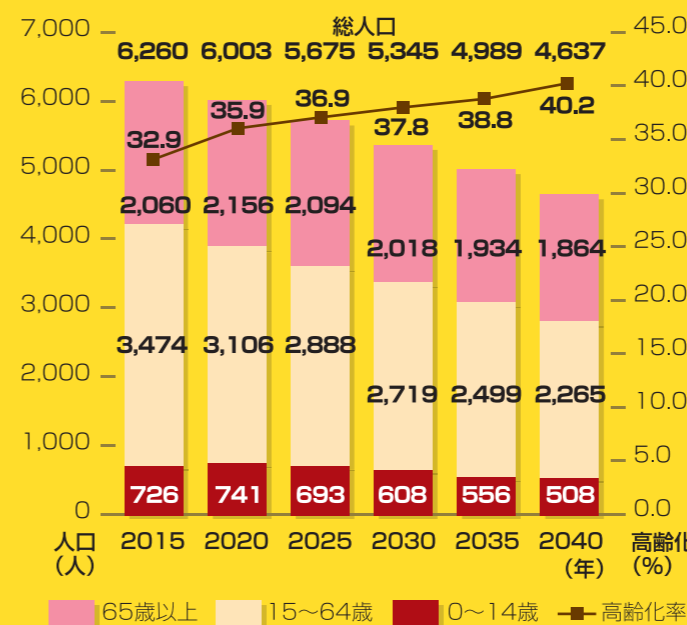
令和2年度～令和7年度 荒尾市地区別計画

万田地区 Manda area

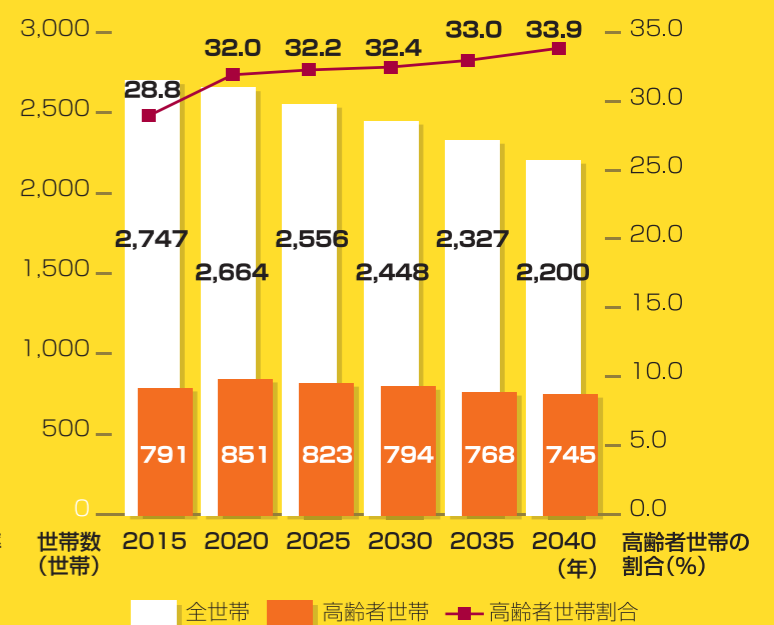
荒尾駅を中心に広がる万田地区。2月と9月に行われ「こくんぞさん」と呼ばれる四山神社の大祭は、多くの方が訪れ、にぎわっています。有明海に面する南新地地区は、未来志向の新しいまちづくりも進められており、今後の発展が期待されています。



■年齢別人口推計



■世帯増減数推移



人口は2020年以降も減少する見込みで、2040年には、1,366人減少し4,637人となる見込み。併せて高齢化率が40.2%となる見込み。人口減少に伴い、2040年までに世帯数も減少する見込み(▲464世帯)。

注) 小地域単位でコーホート要因法による推計を実施「準移動率」「子供女性比」「0-4歳性比」の各パラメーターは国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口の仮定値(荒尾市)を使用
人口推計は平成27年国勢調査、世帯推計は2015年が平成27年国勢調査、2020年以降が平成22年国勢調査に基づく
資料) 国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツールV2(H27国調対応版)」及び「将来人口・世帯予測プログラム(バージョン1.3)」を用いた計算結果を加工して作成

万田地区 資源マップ

万田地区で開催したワークショップで、地区の自慢を地図に落とし込みました。

点在している資源は、地区の皆さんの暮らしと心を支えています。

ワークショップとは

さまざまな立場の人が集まって、自由に意見を出し合い、お互いの考えを尊重しながら意見をまとめていく手法です。



- 凡例**
- 主要道路
 - 河川/池
 - 宅地など
 - 田・畑など

万田地区資源

- 1 荒尾駅
- 2 万田小学校
- 3.6 海達公子詩碑
- 4 おもやい市民花壇（バラ園）、ホテル
- 5 四ツ山神社、こくんぞさん
- 7 西原神社
- 8 宮島神社
- 9 荒尾競馬場跡地（南新地地区）
- 10 海岸の散歩道
- 11 荒尾港
- 12 メディア交流館
- 13 日の出公園・桜

四ツ山神社



万田地区 魅力と課題

万田地区の皆さんと、地区について考えたワークショップでは、日頃から感じている、地区の困りごと（課題）や地区の自慢（魅力）について、意見を出し合いました。多くのご意見をいただいた中で、地区の皆さんが特に重視している課題や、地区ならではの魅力と考えているものをあげてもらいました。

課題

1 荒尾駅

- ・階段しかなく、長く急で危険、エレベーター、エスカレーターがほしい
- ・東口を設置してほしい
- ・駅前が暗くて危険、防犯カメラがほしい

荒尾市の玄関口「荒尾駅」。地区活性化に向け重要な役割を担っています。荒尾駅については、駅舎自体の整備と共に、荒尾駅を活用した活性化をどう考えるかが課題になっています。



2 地域のつながり

- ・地域活動参加率の低下
- ・自治会加入率の低下、役員のなり手不足
- ・老人会、子ども会、婦人会参加者減少
- ・公民館等の集える場所がない

市街地にあり、人口、世帯数が比較的多い万田地区ですが、地域活動や自治会活動については課題を感じています。役員のなり手が少ないだけでなく、自治会加入率は72.8%と市内で3番目に低くなっています。

3 環境

- ・空き家、空き地と雑草問題
- ・野良猫の増加、エサやりやフンの問題
- ・ゴミの分別等のルール遵守

万田地区のH30年末時点の空き家数は112軒（目視調査で空き家と判断された家）。そのうち解体が必要、または解体が今後必要になる「老朽危険」が56軒と半数を超えています。空き家や空き地の増加は、雑草問題や野良猫問題の原因の一つになっています。

魅力

1 お祭りが多い

- ・こくんぞさん（四山神社）
- ・えびす祭り
- ・宮島神社（秋の大祭）
- ・日の出町内会仲よし保育園夏祭り・秋祭り

荒尾市を代表するお祭りから、地域の小さなお祭りまで、さまざまなお祭りが万田地区の魅力にあげられました。長い歴史をもつ「こくんぞさん」は年齢を超えて地域住民の心をつなげています。



2 展望や景観、名所

- ・有明海の夕日
- ・四ツ山公園の展望
- ・荒尾干潟
- ・桜の名所が多い

有明海に面し、四ツ山公園など小高い展望台がある万田地区。有明海を臨む景観は、あらお八景にも選ばれる絶景です。四ツ山公園をはじめとする桜の名所の多さも、地区の魅力になっています。



3 開発と利便性

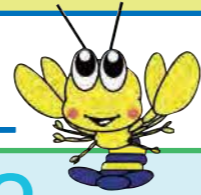
- ・郵便局、銀行、大規模小売店、荒尾駅、交番、自動車学校などがある
- ・飲食店が多い
- ・開発が進み人口が増えている地区がある

市街地にあり、暮らしに必要な環境が整っている万田地区。さらに南新地地区の開発で、利便性が向上し、人口の増加も期待されています。新しい地区の開発を、万田地区の賑わいにどのようにつなげていくかは、今後の検討事項です。

万田中央地区 全体の方針

地区の課題を解決し、資源を生かしてどんな地域を目指すか。ワークショップでは住民の皆さんが思い描く万田中央地区の未来について意見を出してもらいました。目指す姿の実現に向け引き続き住民で意見を出し合いながら、今後、具体的な取組みを考えていきます。活動への積極的な参加など取組みへのご協力をお願いします。

世代間のコミュニケーションがとれた「明るい」「元気」なまち



目指す姿 1

「地域のコミュニケーションがとれている」まち

市外からの移住者も多い万田中央地区。新旧の住民、世代の異なる住民が積極的にコミュニケーションをとることが、元気な地域づくりに欠かせません。地域の高校生、高専生も巻き込みながら、地域拠点を活用したまちづくりが求められます。



目指す姿 2

「住みやすい」まち

「買い物がしやすい」などの住みやすさに加え、「子どもが住みやすく、子育てがしやすい」ことも重要な要素です。加えて高齢者まで元気で過ごすため、音楽や体操を活用し、住民を巻き込んでいきます。



目指す姿 3

「安心・安全」なまち

防災の視点と共に、高齢や子どもの見守りを積極的に住民が行うことで、安心の地域づくりを進めます。さらに、空き家の適正管理を促します。



目指す姿 4

「明るくきれい」なまち

フラワーロードを維持し、雑草や道路脇の大木などを整備し、きれいなまちを目指します。さらに、きれいなまちに多くの人を呼べるよう、史跡めぐりの仕組みづくりを考えていきます。



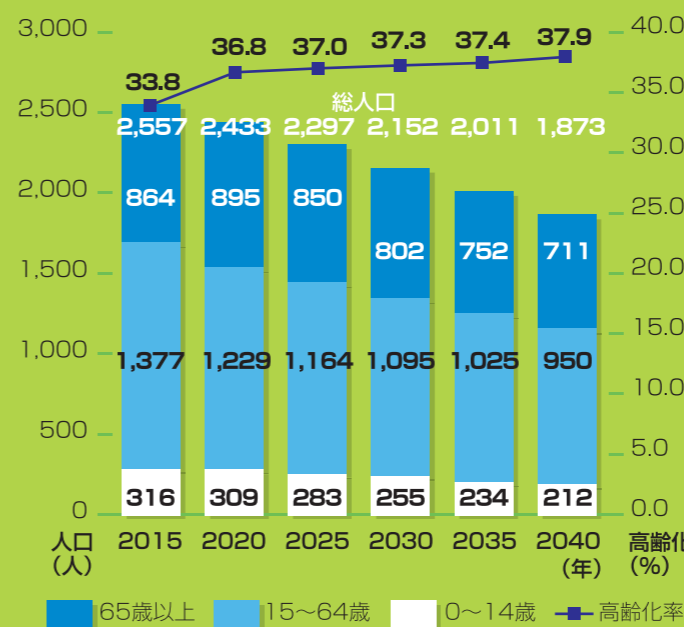
令和2年度～令和7年度 荒尾市地区別計画

万田中央地区 Manda-Chuo area

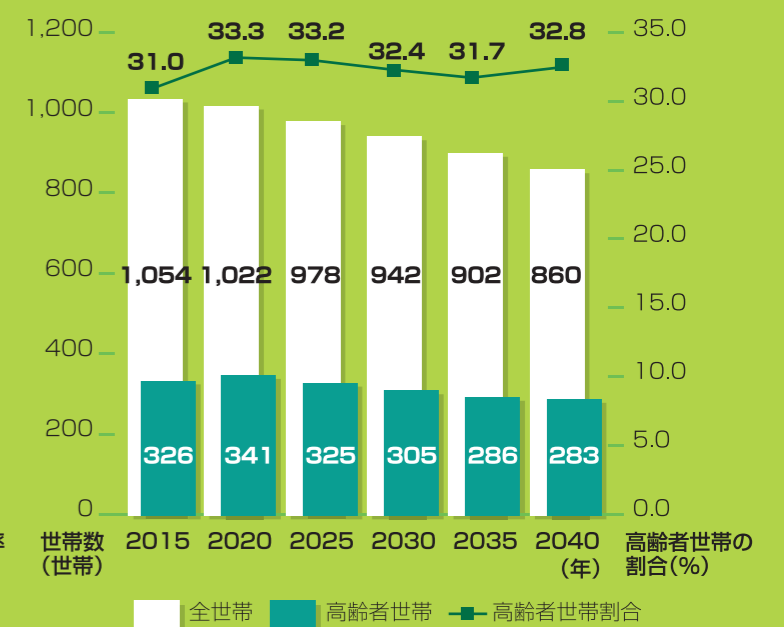
万田山の周辺に位置する万田中央地区は、多くの公園など豊かな自然に恵まれています。自然を楽しむウォーキングロードも整備され、万田山からの景観は、地区住民の自慢の一つです。地区内には世界遺産にも認定されている炭鉱史跡も残っています。



■年齢別人口推計



■世帯増減数推移



人口は2020年以降も減少する見込みで、2040年には、560人減少し1,873人となる見込み。併せて高齢化率が37.9%となる見込み。人口減少に伴い、2040年までに世帯数も減少する見込み(▲162世帯)。

注) 小地域単位でコーホート要因法による推計を実施「準移動率」「子供女性比」「0-4歳性比」の各パラメーターは国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口の仮定値(荒尾市)を使用
人口推計は平成27年国勢調査、世帯推計は2015年が平成27年国勢調査、2020年以降が平成22年国勢調査に基づく
資料) 国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツールV2(H27国調対応版)」及び「将来人口・世帯予測プログラム(バージョン1.3)」を用いた計算結果を加工して作成

万田中央地区 資源マップ

万田中央地区で開催したワークショップで、地区の自慢を地図に落とし込みました。点在している資源は、地区の皆さんの暮らしと心を支えています。

ワークショップとは

さまざまな立場の人が集まって、自由に意見を出し合い、お互いの考えを尊重しながら意見をまとめていく手法です。



万田中央地区資源

- 1 ロックタウン
- 2 万田山・袴塚城跡
- 3 妙見さん・石の史跡
- 4 田次郎丸遺跡
- 5 ウォーキングロード
- 6 炭鉱遺跡
- 7 地蔵さん
- 8 万田中央ふれあいハウス
体育館・グラウンド
- 9 権現さん

凡例

- 主要道路
- 河川/池
- 宅地など
- 田・畑など



体育館



田次郎丸遺跡



万田山からの風景

万田中央地区 魅力と課題

万田中央地区の皆さんと、地区について考えたワークショップでは、日頃から感じている、地区の困りごと(課題)や地区の自慢(魅力)について、意見を出し合いました。多くのご意見をいただいた中で、地区の皆さんが特に重視している課題や、地区ならではの魅力と考えているものをあげてもらいました。

課題

1 地域のつながり

- ・地域のコミュニケーションがうまくとれない
- ・地域行事の参加者、スタッフが少ない
- ・自治会に加入する人が減少
- ・高齢化で自治会の班長をする人がない

市外からの移住者が多い地域で、地域のつながりの希薄化が問題となっています。自治会に加入する人が減少しており、地域行事の運営者、自治会役員のなり手不足が課題です。

2 暮らしの不便

- ・スーパーがなくなったので不便
- ・商店が偏っている、コンビニがない
- ・公共の乗り物の運行回数が少ない
- ・独居高齢者の買い物、ゴミ出し、リサイクル品出し、草取り、大工仕事が不便

人口の減少に伴い、地域住民の暮らしを支えていたスーパーなどが閉店しました。中心市街地への移動が必要ですが、公共交通機関の運行回数の問題で、不便を感じている人が多くなっています。一人暮らしの高齢者も多く、暮らしに必要な活動を支える人材も不足しています。

3 空き家、雑草問題

- ・空き家、空き地の管理が行き届いていない
- ・持ち主不明の土地がある(管理者がいない)
- ・大木があり、電波の入りが悪い

万田中央地区のH30年末時点の空き家数は58軒(目視調査で空き家と判断された家)。そのうち解体が必要、または解体が今後必要になる「老朽危険」が34軒と半数を超えています。空き家や空き地の増加は、雑草問題や管理されていない道路沿いの樹木などの地域環境の悪化につながっています。

4 安全

- ・通学時の安全確保ができていない
- ・除草、公園と道路わきの木の枝が伸びすぎ、見通しが悪いので交通事故の可能性が高い

道路の整備が行き届いていない場所が多く指摘され、特に子どもたちの通学路の安全確保が課題にあげられました。

魅力

1 史跡が多い

- ・袴塚城跡
- ・田次郎丸居館跡
- ・妙見さん、権現さん
- ・万田山からの景観
- ・万田坑(鉄道敷)



鎌倉から室町時代の名主「田次郎丸居館跡」や万田山の「袴塚城跡」、など、万田中央地区には、歴史を感じさせる多くの史跡が残っています。これらの史跡を結ぶウォーキングコースも整備され、万田山からの景観と共に、地域の魅力になっています。



専用鉄道敷跡

2 フラワーロード

万田地区住民も整備しているフラワーロードは、四季折々の花で見る人の目を楽しませるだけでなく、整備する人の心のよりどころにもなっています。



3 施設

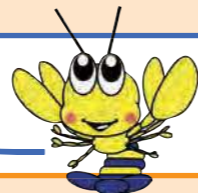
- ・万田中央ふれあいハウス、体育館、グラウンド

地域住民の暮らしを支え、防災拠点ともなるさまざまな施設が点在しています。万田中央ふれあいハウスや体育館などは、地域活動にも活用されています。

井手川地区 全体の方針

地区の課題を解決し、資源を生かしてどんな地域を目指すか。
ワークショップでは住民の皆さんが思い描く井手川地区の未来について意見を出してもらいました。
目指す姿の実現に向け引き続き住民で意見を出し合いながら、
今後、具体的な取組みを考えていきます。
活動への積極的な参加など取組みへのご協力をお願いします。

「美しく魅力ある」まち (荒尾の“ビバリーヒルズ”を目指して)



目指す姿 1

「観光」のまち

万田坑など、全国に発信できる史跡を有する井手川地区。万田坑と周辺にある万田公園を再整備し、豊かな自然を生かした地域を目指します。



目指す姿 2

皆が集う「楽しい」まち

公民館やサロンなど、人とつながりをつくる機会と場を定期的につけていきます。若い世代を巻き込むために、若い世代だけの地域組織づくりなども検討し、住民同士の理解も深めていきます。



目指す姿 3

「誰もが暮らしたい」まち

高齢者や子どもの見守りを充実させると共に、買い物の不便さの解消、生活環境の整備を行い、若い世代も住みたくなるまちを目指します。



目指す姿 4

「元気」なまち

ウォーキングなどの機会をつくり、高齢者が元気に過ごせるまちにしていきます。さらに、助け合いの精神で災害に強いネットワークをつくり、まちとしても元気な地域を作っていきます。



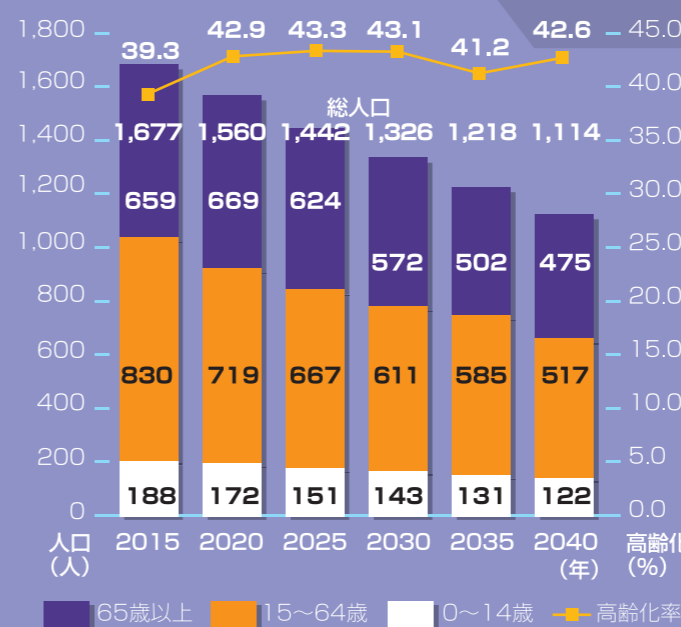
令和2年度～令和7年度 荒尾市地区別計画

井手川地区 Idegawa area

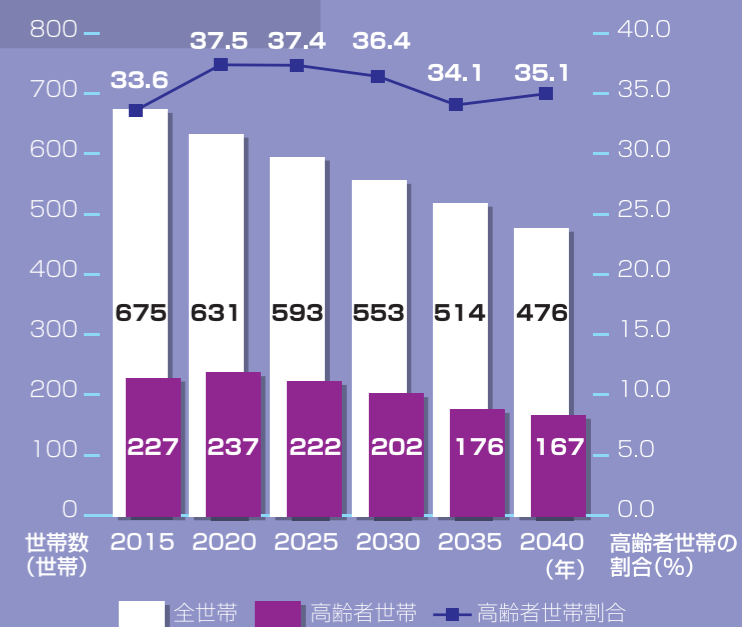
世界遺産「万田坑」を有する井手川地区。
地区内には、ホテルが見られる環境や、地区住民が整備した花壇など、豊かな自然もあります。
高齢化率は高いものの、元気な高齢者が多く、
さまざまな知識を生かした見守り活動や地域活動が盛んです。



■年齢別人口推計



■世帯増減数推移



人口は2020年以降も減少する見込みで、2040年には、446人減少し1,114人となる見込み。
併せて高齢化率が42.6%となる見込み。
人口減少に伴い、2040年までに世帯数も減少する見込み(▲155世帯)。

注) 小地域単位でコーホート要因法による推計を実施「準移動率」「子供女性比」「0-4歳性比」の各パラメーターは国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口の仮定値(荒尾市)を使用
人口推計は平成27年国勢調査、世帯推計は2015年が平成27年国勢調査、2020年以降が平成22年国勢調査に基づく
資料) 国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツールV2(H27国調対応版)」及び「将来人口・世帯予測プログラム(バージョン1.3)」を用いた計算結果を加工して作成

井手川地区 資源マップ

井手川地区で開催したワークショップで、地区の自慢を地図に落とし込みました。点在している資源は、地区の皆さんの暮らしと心を支えています。

ワークショップとは

さまざまな立場の人が集まって、自由に意見を出し合い、お互いの考えを尊重しながら意見をまとめていく手法です。



井手川地区資源

- 1 世界遺産 万田坑
- 2 万田公園・フラワーガーデン・桜並木
- 3 下井手神社（三ノ宮）・鳴籠
- 4 ホテル
- 5 あじさい通り
- 6 ウォーキングコース
- 7 自然の森
- 8 えびす神社
- 9 古墳群

凡例

- 主要道路
- 河川/池
- 宅地など
- 田・畑など



万田坑



下井手神社(三ノ宮)



えびす神社

井手川地区 魅力と課題

井手川地区の皆さんと、地区について考えたワークショップでは、日頃から感じている、地区の困りごと(課題)や地区の自慢(魅力)について、意見を出し合いました。多くのご意見をいただいた中で、地区の皆さんが特に重視している課題や、地区ならではの魅力と考えているものをあげてもらいました。

課題

1 人材不足

- ・就職先が少ないので、若い人が少ない
- ・少子高齢化
- ・住民が地元行事に無関心
- ・人と人との交流の機会が少ない
- ・地域役員のなり手不足

多くの人材は魅力の一つでありながら、若年層の住民が少なく、高齢化率は39.3%と荒尾市で最も高い井手川地区の地域コミュニティの維持には、人材が不足しています。

2 不便

- ・買い物が不便
- ・団地のアクセスが悪い、災害時等心配
- ・ゴミ出しが困難、大通りに持っていく必要がある
- ・学校等へのアクセス

地区内に買い物ができる商店が少なく、買い物が不便なことは課題の一つです。さらに交通アクセスやゴミ出し場所の整備などが問題にあがっています。

3 通学路など道路環境

- ・通学路が危ない。木が外灯をふさいでいて暗い
- ・子どもが遊ぶ場所がない

道沿いの木々の整備や道路の整備、狭い道の多さなど、通学路をはじめとする、子どもにも安全な地域環境づくりが求められています。

4 その他

- ・下井手神社（三ノ宮）の管理
- ・万田公園整備

地域の魅力の一旦を担う三ノ宮や万田公園について、その維持管理の方法や整備について、検討していく必要があります。

魅力

1 世界遺産がある

- ・万田坑 <世界遺産>
- ・下井手神社（三ノ宮）鳴籠

2015年に世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」の一つに認定された「万田坑」。多くの観光客が訪れる、熊本県を代表する史跡は地域住民の自慢の一つです。

2 人と活動がいい

- ・子どもたちの仲が良い
- ・高齢者の見守りパトロールを行っている
- ・技術や知識を持った人材が豊富

井手川地区では、いきいきサロンや子どもの見守り活動、認知症徘徊訓練など多くの地域活動が盛んに行われています。また、技術や知識をもった人材もたくさんいます。



3 環境がいい

- ・万田フラワーガーデン
- ・深瀬ヶ丘団地の環境が良い
- ・万田公園の桜

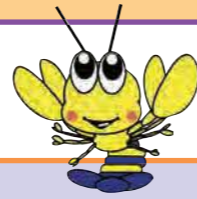
地区内には、ホテルの生息地や花がきれいな場所、ウォーキングコースなどもあり、豊かな自然に恵まれています。



中央地区 全体の方針

地区の課題を解決し、資源を生かしてどんな地域を目指すか。ワークショップでは住民の皆さんが思い描く中央地区の未来について意見を出してもらいました。目指す姿の実現に向け引き続き住民で意見を出し合いながら、今後、具体的な取組みを考えていきます。活動への積極的な参加など取組みへのご協力をお願いします。

若い世代も活躍できる楽しく暮らしやすいまち



目指す姿 1

「生活環境がよい」まち

外灯が整備されたり、憩いの場や地元での買い物場が整備されるだけでなく、清掃の行き届いたきれいな地域であること、交通やゴミ出しのマナーがよいことなど、目に見えるところ、見えないところ、双方の環境がよいまちを目指します。



目指す姿 2

「みんながまちづくりに参加」するまち

暮らしやすい地区づくりのためには、みんなでまちを支えることも重要です。老若男女、世代を越えて話し合い、挨拶し合い、思いやりをもって暮らせるまちを作っていきます。



目指す姿 3

「若い世代が活躍できる」まち

子どもや高校生が活躍できるまちは、元気です。より若い人たちが活躍できると共に、まちづくりに参加し、考える場づくりをしています。



目指す姿 4

「楽しいイベントがある」まち

さまざまなイベントが開催され、スポーツ施設なども整っている中央地区。これらを活用し、世代を越えて参加できるイベントを開催します。



注) 小地域単位でコーホート要因法による推計を実施「準移動率」「子供女性比」「0-4歳性比」の各パラメーターは国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口の仮定値(荒尾市)を使用
人口推計は平成27年国勢調査、世帯推計は2015年が平成27年国勢調査、2020年以降が平成22年国勢調査に基づく
資料) 国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツールV2(H27国調対応版)」及び「将来人口・世帯予測プログラム(バージョン1.3)」を用いた計算結果を加工して作成

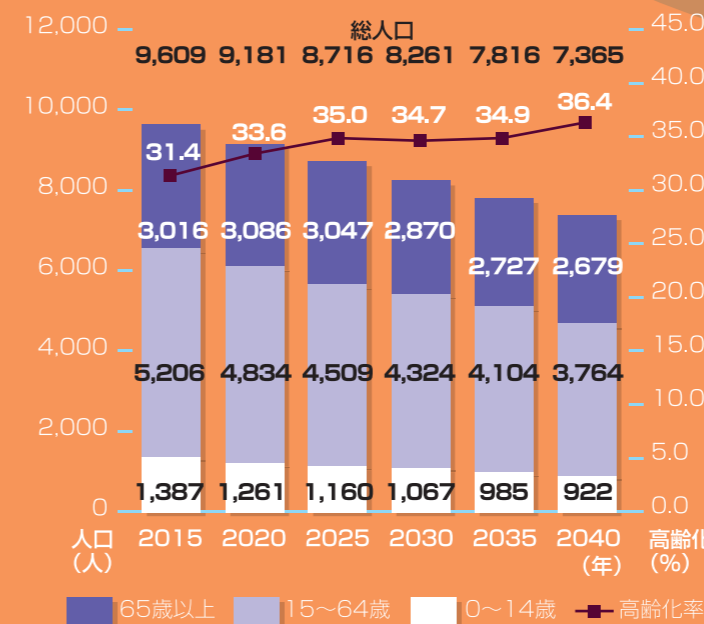
令和2年度～令和7年度 荒尾市地区別計画

中央地区 Chuo area

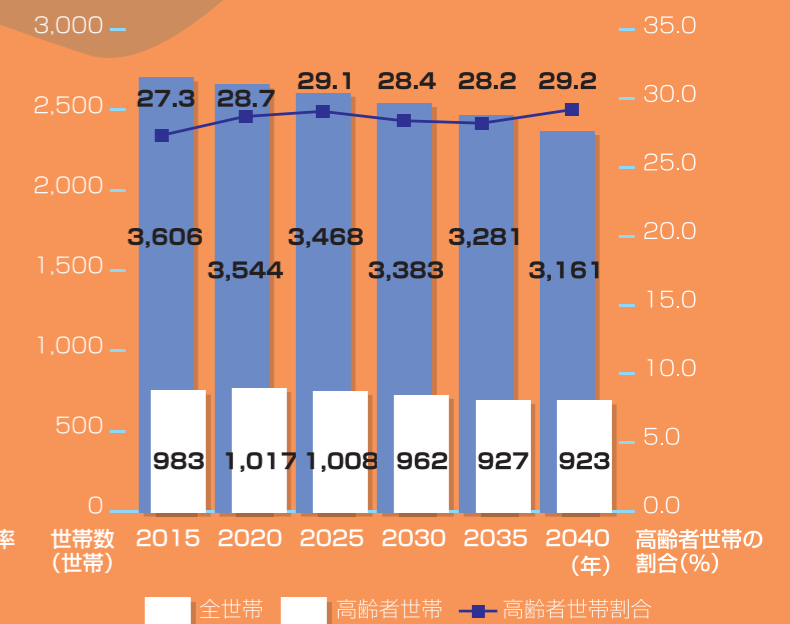
荒尾市で人口、世帯数が最も多い中央地区。団地や有明高等学校があり、小学校の児童数も多い元気な地域です。地域ごとに各種イベントや行事も開催され、ボランティア活動も盛んです。



■年齢別人口推計



■世帯増減数推移



人口は2020年以降も減少する見込みで、2040年には、1,816人減少し7,365人となる見込み。併せて高齢率が36.4%となる見込み。
人口減少に伴い、2040年までに世帯数も減少する見込み(▲383世帯)。

中央地区 資源マップ

中央地区で開催したワークショップで、地区の自慢を地図に落とし込みました。点在している資源は、地区の皆さんの暮らしと心を支えています。

ワークショップとは

さまざまな立場の人が集まって、自由に意見を出し合い、お互いの考えを尊重しながら意見をまとめていく手法です。



野外音楽堂

中央地区資源

- 1 池黒池・コウノトリの飛来
- 2 中桜祭
- 3 荒尾二造
- 4 青研
- 5 荒尾運動公園
- 6 ウォーキングロード
- 7 有明高等学校
- 8 中央公園
- 9 大東区サロン
- 10 秋祭り
- 11 納涼祭



荒尾二造



中央地区 魅力と課題

中央地区の皆さんと、地区について考えたワークショップでは、日頃から感じている、地区の困りごと(課題)や地区の自慢(魅力)について、意見を出し合いました。多くのご意見をいただいた中で、地区の皆さんが特に重視している課題や、地区ならではの魅力と考えているものをあげてもらいました。

課題

- ### 1 自治会活動が円滑にいかない
- ・自治会を抜ける人が多く、入る人が少ない
 - ・隣近所のおつきあいがいい
 - ・公民館等役員のなり手が少ない
 - ・行事に協力する人が少ない

人口が多い中央地区ですが、若年層、移住層も多く、自治会の加入者数減は大きな問題となっています。団地など集合住宅も多いので、集団での退会が増加しているのも課題となっています。



- ### 2 地域環境が整っていない
- ・空き家が多く、雑草や木などが問題
 - ・中央公園にゴミがある
 - ・買い物をするところがない

地域環境についての課題では、空き家とゴミ出しマナーについての意見があがりました。空き家の雑草問題や公園へのポイ捨てなどへの対策が求められています。また、地区の一部には買い物が必要な地域もあり、より、暮らしやすい環境づくりが必要です。



魅力

- ### 1 花・自然がいっぱい
- ・桜がきれい(中桜祭など)
 - ・花いっぱい運動が盛ん
 - ・コウノトリも飛来する

公園などが多い中央地区。20年以上に渡り住んでいるという人も多く、花壇の整備などに積極的に関わる人も少なくありません。地区外にも知られる桜の名所でのイベントのほか、コウノトリが飛来する豊かな自然が魅力です。



- ### 2 地域を見守る人がいる
- ・交差点で毎日見守りをしてくれる
 - ・認知症の声掛け訓練をやっており、地域で活動している

ボランティアで地区の見守りをやっている人が多いという中央地区。交差点で毎日子どもたちを見守ったり、認知症の声掛け訓練を定期的に行っている地域もあります。年齢を問わないつながりが残っています。

- ### 3 環境がいい
- ・スポーツ関連施設が身近
 - ・商業施設・病院が近い
 - ・交通の便がいい
 - ・中央公園がある
 - ・北五反田公園がある

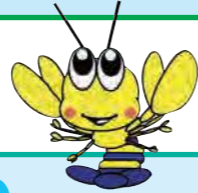
公園や病院、荒尾運動公園など、必要不可欠な施設と暮らしを豊かにする施設が揃っているのが中央地区です。魅力を感じている人も多いです。



緑ヶ丘地区 全体の方針

地区の課題を解決し、資源を生かしてどんな地域を目指すか。ワークショップでは住民の皆さんが思い描く緑ヶ丘地区の未来について意見を出してもらいました。目指す姿の実現に向け引き続き住民で意見を出し合いながら、今後、具体的な取組みを考えていきます。活動への積極的な参加など取組みへのご協力をお願いします。

人と人がつながり、見守り、きれいで安心のまち



目指す姿 1

「地域の強いつながり」があるまち

市外からの移住者も多い緑ヶ丘地区。地域を守り、元気にする自治会活動や、子どもや高齢者の見守り活動は、安心できる地区づくりにも不可欠です。声掛けや挨拶など、地区の人たちがみんな知り合いになれるまちを目指します。



目指す姿 2

「環境がよくきれい」なまち

名前のとおり、緑が豊かなことは緑ヶ丘地区の自慢の一つでもあります。花壇の整備や空き地の草刈りボランティアのほか、ゴミ、ペットマナーの向上を図り、きれいなまちをつくれます。



目指す姿 3

「安心・安全」なまち

商業地にある緑ヶ丘地区は大きな通りが多いという特徴があります。交通マナーの向上や防災、防犯設備の充実で、子どもも高齢者も、夜も安心できるまちづくりが求められています。



目指す姿 4

「資源を活用して活気ある」まち

団地や空き家など、地区にある資源を生かすことで、若者や企業が多いまちを目指します。さらに、文化財も活用して、周囲の人にうらやましいと思ってもらえるまちづくりをしています。



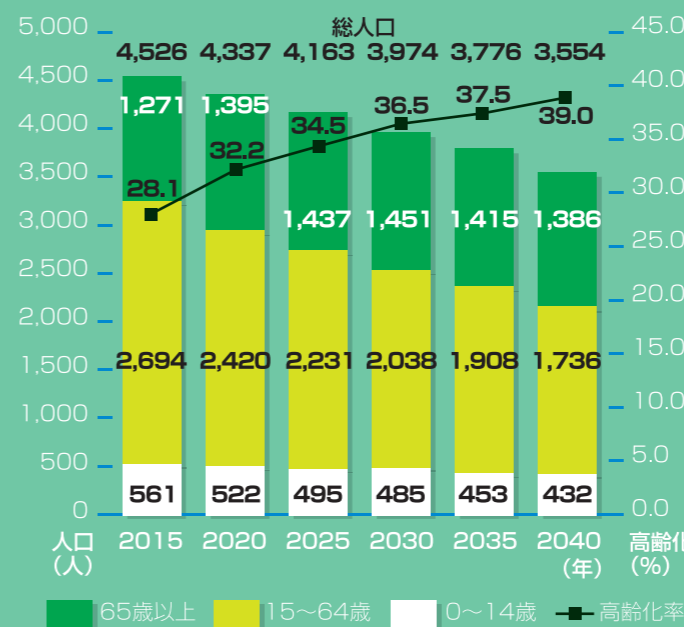
令和2年度～令和7年度 荒尾市地区別計画

緑ヶ丘地区 Midorigaoka area

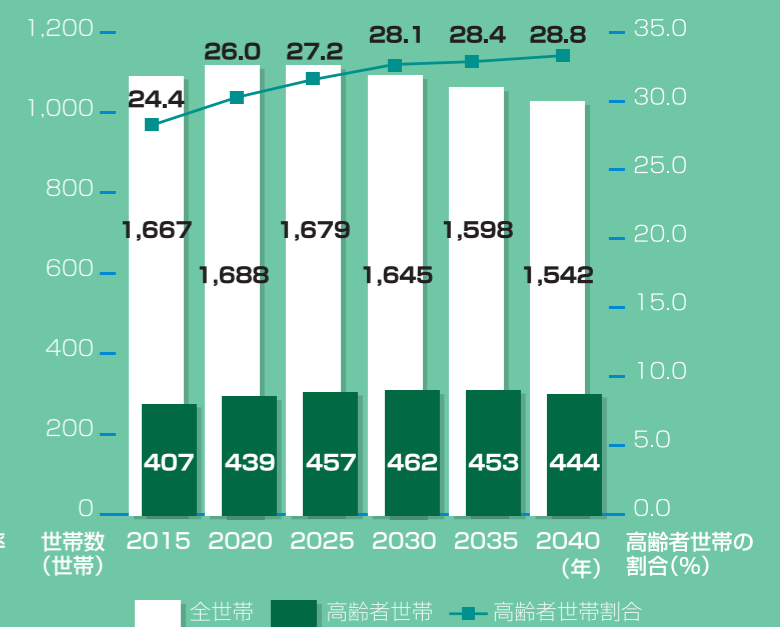
グリーンランドやあらおシティモールなどがある緑ヶ丘地区は、荒尾市内でも利便性が高く、交通網も充実しています。高齢化率が低く、世帯数も増加。子どもの人口も多い、元気な地区です。



■年齢別人口推計



■世帯増減数推移



人口は2020年以降も減少する見込みで、2040年には、783人減少し3,554人となる見込み。併せて高齢化率が39.0%となる見込み。人口減少に伴い、2040年までに世帯数も減少する見込み(▲146世帯)。

注) 小地域単位でコーホート要因法による推計を実施「準移動率」「子供女性比」「0-4歳性比」の各パラメーターは国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口の仮定値(荒尾市)を使用
人口推計は平成27年国勢調査、世帯推計は2015年が平成27年国勢調査、2020年以降が平成22年国勢調査に基づく
資料) 国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツールV2(H27国調対応版)」及び「将来人口・世帯予測プログラム(バージョン1.3)」を用いた計算結果を加工して作成

緑ヶ丘地区 資源マップ

緑ヶ丘地区で開催したワークショップで、地区の自慢を地図に落とし込みました。点在している資源は、地区の皆さんの暮らしと心を支えています。

ワークショップとは

さまざまな立場の人が集まって、自由に意見を出し合い、お互いの考えを尊重しながら意見をまとめていく手法です。



グリーンランド



荒尾総合文化センター



別当塚古墳



みどり蒼生館

緑ヶ丘地区 魅力と課題

緑ヶ丘地区の皆さんと、地区について考えたワークショップでは、日頃から感じている、地区の困りごと(課題)や地区の自慢(魅力)について、意見を出し合いました。多くのご意見をいただいた中で、地区の皆さんが特に重視している課題や、地区ならではの魅力と考えているものをあげてもらいました。

課題

1 環境

- ・空き家の増加、管理がされていない
- ・通学路や道路、公園等の雑草、木、ゴミ
- ・飼い主のマナー、野良犬、野良猫
- ・騒音

緑ヶ丘地区でも空き家の増加は課題の一つ。また、道路や公園のゴミ、ペットのマナーなど、環境整備に対する問題があがりました。

2 安全

- ・町が暗いので、外灯が必要
- ・道路が安全でない
- ・一次避難所が遠い

シティモール周辺は明るいものの、住宅地に入ると外灯が少なくなるため、安全性が低いと感じている人が多くいました。

3 不便

- ・買い物、公共交通の便が悪い
- ・公共施設の不足

買い物の場所、公共施設、公共交通の利便性が高い地域は集中しており、少し離れた地区では不便を感じる高齢者の声があがりました。

4 地域のつながり

- ・自治会役員のなり手がいない
- ・地域の行事の参加率低下
- ・子ども会の加入者が少ない

高齢化率が28.1%と荒尾市で11位の緑ヶ丘地区は、若手の住民が多いのも特徴。その分、自治会役員のなり手不足や行事参加率の低下が課題になっています。

5 その他

- ・地域が離れている、高齢化が進行
- ・別当塚の管理を区だけで対応するのは難しい

グリーンランドをはさんで、商業エリアから離れた地域もあり、同じ地区内でも異なる課題があげられました。

魅力

1 高い利便性

- ・病院が充実、近くて安心
- ・買い物がしやすい(シティモール、大型小売店含む)
- ・銀行や郵便局がある
- ・交通機関が充実

あらおシティモールなどは交通の拠点ともなっています。大型小売店も点在しており、商業地区周辺の利便性は荒尾市内でもトップクラス。買い物商圏カバー率は79.3%と荒尾市で最も高くなっています。



2 史跡

- ・別当塚古墳
- ・登り窯跡

県下でも古い古墳の一つにあげられる別当塚古墳群や、小代焼の登り窯跡など、多くの史跡が点在しています。

3 その他

- ・グリーンランド
- ・緑が多い
- ・人口(子ども含む)が多い

映画のロケ地にもなり、全国から集客する遊園地グリーンランドのほか、荒尾市の中でも10代の人口が多い、という特徴があります。



平井地区 全体の方針

地区の課題を解決し、資源を生かしてどんな地域を目指すか。ワークショップでは住民の皆さんが思い描く平井地区の未来について意見を出してもらいました。目指す姿の実現に向け引き続き住民で意見を出し合いながら、今後、具体的な取組みを考えていきます。活動への積極的な参加など取組みへのご協力をお願いします。

景観がいい、住みたくなるまち



目指す姿 1

「環境を整備して“人を呼べる”」まち

岩本橋や田園風景、ホテルが生息する環境など、資源と自然に恵まれた平井地区。資源を整備し、発信することで、多くの人を訪れるまちを目指します。



目指す姿 2

「空き家がなく“賑わいある”」まち

子どもたちにも住みやすい地域をつくり、人口が増えるようなまちづくりを行うことで、空家がなくなるようにつとめます。



目指す姿 3

「地域コミュニケーション、絆」があるまち

地域住民同士が密にコミュニケーションをとることで、人の関わりが深い、助け合うまちを目指します。子どもも安心して遊べ、地域活動が活発になることで、元気な地域になっていきます。



目指す姿 4

「買い物に困らない」まち

暮らしやすい地域になるために、農家との交流や移動販売の実施など、買い物に困らない地域を目指します。乗合タクシーの利便性向上なども求められます。



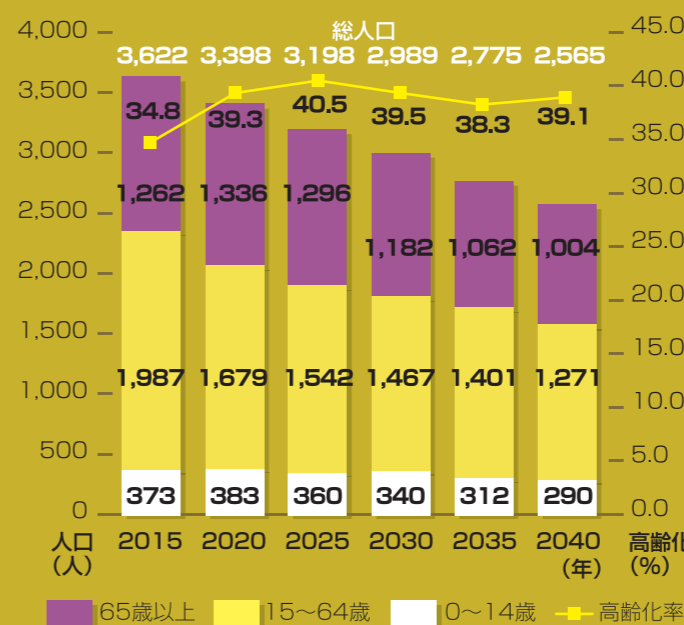
令和2年度～令和7年度 荒尾市地区別計画

平井地区 Hirai area

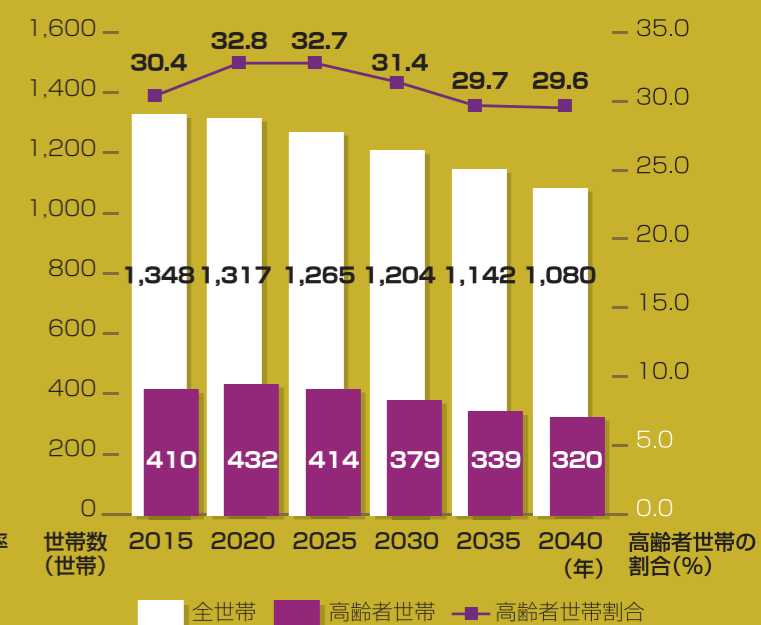
小代焼の窯元や慈照院の大仏、熊本県指定重要文化財になっている眼鏡橋「岩本橋」など、多くの史跡に恵まれている平井地区。ホテルが飛び交う自然も残る地区です。地域活性化の取組みも盛んで、サロンや防災訓練にも積極的に取り組んでいます。



■年齢別人口推計



■世帯増減数推移



人口は2020年以降も減少する見込みで、2040年には、833人減少し2,565人となる見込み。併せて高齢化率が39.1%となる見込み。人口減少に伴い、2040年までに世帯数も減少する見込み(▲237世帯)。

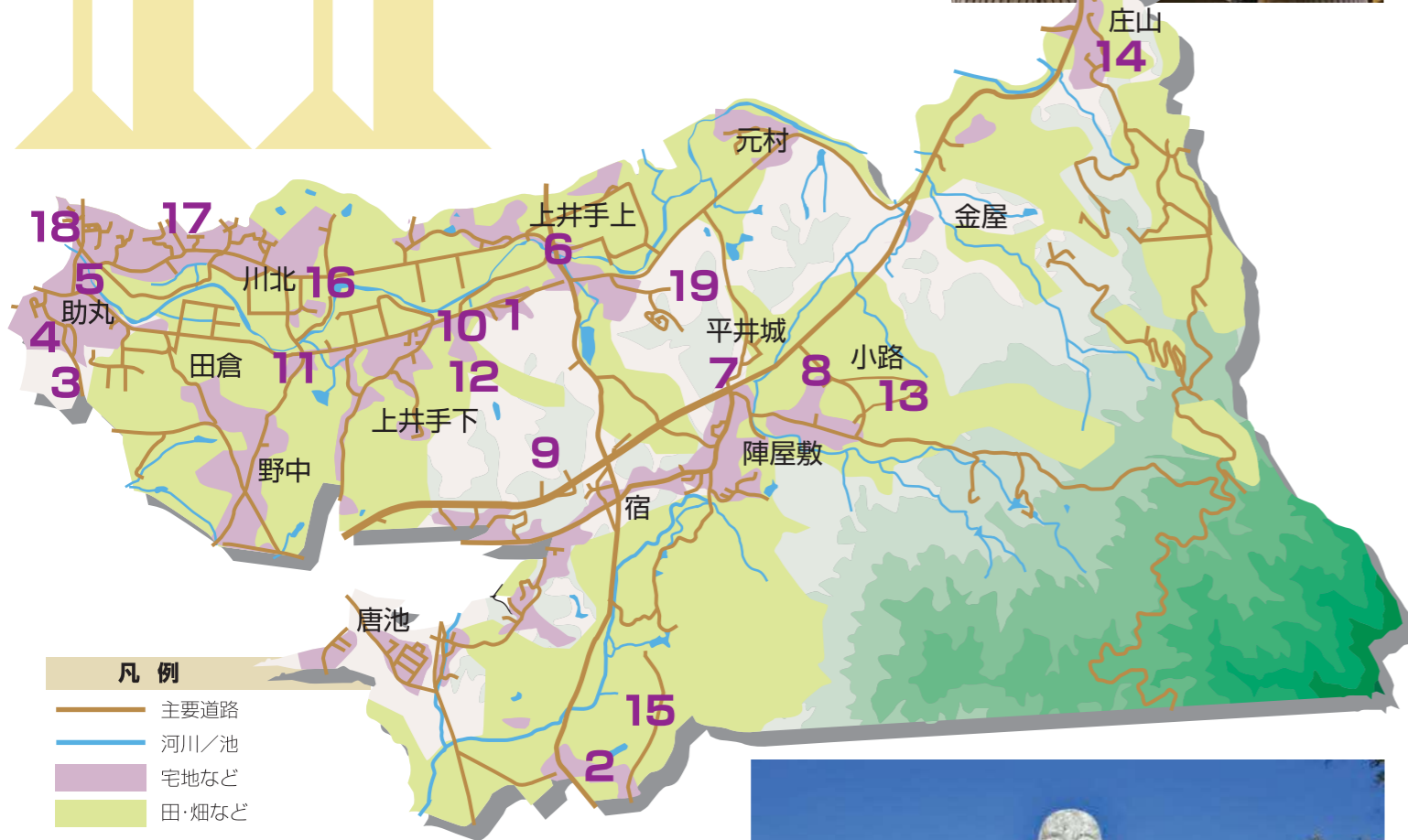
注) 小地域単位でコーホート要因法による推計を実施「準移動率」「子供女性比」「0-4歳性比」の各パラメーターは国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口の仮定値(荒尾市)を使用
人口推計は平成27年国勢調査、世帯推計は2015年が平成27年国勢調査、2020年以降が平成22年国勢調査に基づく
資料) 国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツールV2(H27国調対応版)」及び「将来人口・世帯予測プログラム(バージョン1.3)」を用いた計算結果を加工して作成

平井地区 資源マップ

平井地区で開催したワークショップで、地区の自慢を地図に落とし込みました。点在している資源は、地区の皆さんの暮らしと心を支えています。

ワークショップとは

さまざまな立場の人が集まって、自由に意見を出し合い、お互いの考えを尊重しながら意見をまとめていく手法です。



平井地区資源

- 1 平井小学校
- 2 慈照院・大仏
- 3 別当塚古墳
- 4 花菖蒲園
- 5 高専ダゴ
- 6 岩本橋（眼鏡橋）・鯉のぼり祭り
- 7 隕石
- 8 ホタル祭り
- 9 首塚
- 10 ウォーキングロード
- 11 権現宮
- 12 平井城址
- 13 平山天満宮
- 14.15 小代焼窯元
- 16 本井手神社
- 17 津麻の墓
- 18 下井手神社
- 19 上井手神社



花菖蒲園



慈照院・大仏



岩本橋

平井地区 魅力と課題

平井地区の皆さんと、地区について考えたワークショップでは、日頃から感じている、地区の困りごと(課題)や地区の自慢(魅力)について、意見を出し合いました。多くのご意見をいただいた中で、地区の皆さんが特に重視している課題や、地区ならではの魅力と考えているものをあげてもらいました。

課題

1 地域のつながり、自治会

- ・ 役員の後継者不足
- ・ 近隣への気配りが希薄

地域のつながりが薄くなり、自治会の役員のなり手が不足している現状は、大きな課題になっています。

2 環境

- ・ 過疎化対策
- ・ 空き家が多い

平井地区のH30年末時点の空家数は95軒(目視調査で空き家と判断された家)。そのうち、解体が必要、または今後解体が必要と思われる老朽危険家屋は56軒に及びます。過疎化が進んでいるという実感がある住民も少なくありません。

3 暮らしの不便

- ・ 買い物が不便
- ・ 交通手段不足

買い物の場所が少なく、乗合タクシーが運行してはいますが公共交通機関の不足を課題に感じている人は少なくありません。買い物商圏カバー率は2.6%と荒尾市で11位となっています。

4 道路の整備

- ・ 道路が危険

狭い道路が多かったり、通学路に歩道がない場所もあり、子どもたちの通学が危険、という声があがりました。



魅力

1 岩本橋

- ・ 鯉のぼりまつり
- ・ さくら道

熊本県の重要文化財でもある眼鏡橋「岩本橋」は、地域住民の自慢です。桜の中に石橋がある風景や、鯉のぼりが泳ぐ風景などは、住民の心のよりどころになっています。

2 慈照院の大仏さん

初代住職が手作りした真っ白な弘法大師で知られる慈照院。台座を含め20mある姿は、荒尾市の人にとってもふるさとの風景の一つです。



3 ホタルの里

ホタルの住む平井地区を目指し、地域住民が育成しているホタル。毎年、地区協議会がホタル鑑賞会を実施しており、多くの人で賑わいます。

4 平井小学校

- ・ 歴史
- ・ ここからの眺め

明治からの歴史をもつ平井小学校。高台にある小学校からは、地区が一望できます。

5 その他

- ・ 高専ダゴ
- ・ 防災の取り組みに熱心



大きなお好み焼きで全国のテレビでも取り上げられる「高専ダゴ」は地域の誇りです。また、平井小学校を中心に防災訓練の取り組みも熱心に行われています。

府本地区 全体の方針

地区の課題を解決し、資源を生かしてどんな地域を目指すか。
ワークショップでは住民の皆さんが思い描く府本地区の未来について意見を出してもらいました。
目指す姿の実現に向け引き続き住民で意見を出し合いながら、
今後、具体的な取組みを考えていきます。
活動への積極的な参加など取組みへのご協力をお願いします。

「住む人」も「来る人」も魅力を感じるまち



目指す姿 1

「住む人が暮らしやすい」まち

若い人が住みやすく、定住できるような環境にするためには、防犯灯の整備などで安心して暮らせる環境づくりや、病院があたり買い物がしやすいなど便利に暮らせる地域づくりが必要です。これにより、地区に住む人が増え、子どもが増え、元気な地域を目指します。



目指す姿 2

「人のつながりがある」まち

若い人に地域活動に出てきてもらい、積極的に意見交換したい、という地区の高齢者も少なくないので、今の時代に合った新しい人のつながりをつくることで、地域一体で行事を行ったり、地域住民同士の助け合いの雰囲気を作っていきます。



目指す姿 3

「農業も元気」なまち

農業は府本地区の基幹産業。農業が元気であれば、地域は本当の意味で元気にはなれません。農業法人化などで生産性を向上し、農業で食べていけるまちを目指します。



目指す姿 4

「外部の人にも魅力的で楽しい」まち

府本地区の自慢である、府本小学校や小岱山の麓という立地、農産物などを活用し、外部の人に「府本地区はいい地区だな」と思ってもらえるイメージづくりは重要です。府本小学校や小岱山を活用したイベントを行い、積極的に情報発信することで、府本地区のイメージアップを狙います。
全国的に自慢できる農産物については、荒尾市で開催される大きなイベントのプレゼントなどに提供し、知ってもらえる機会を増やします。

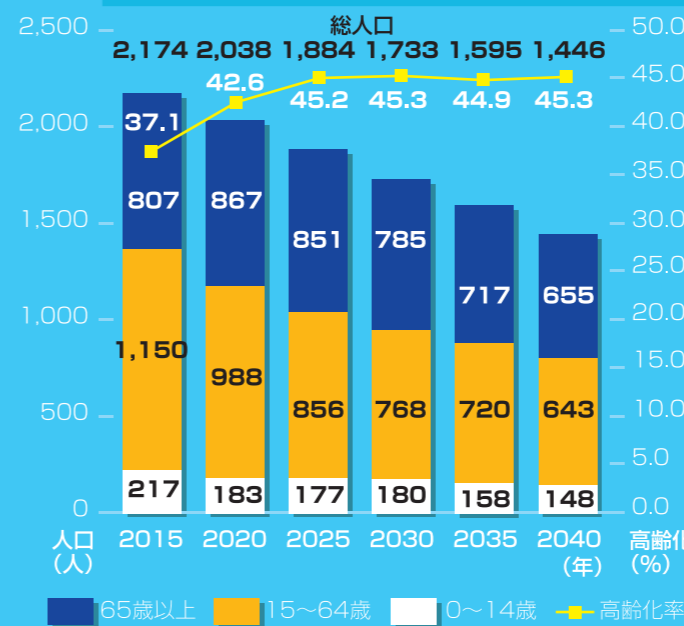
令和2年度～令和7年度 荒尾市地区別計画

府本地区 Fumoto area

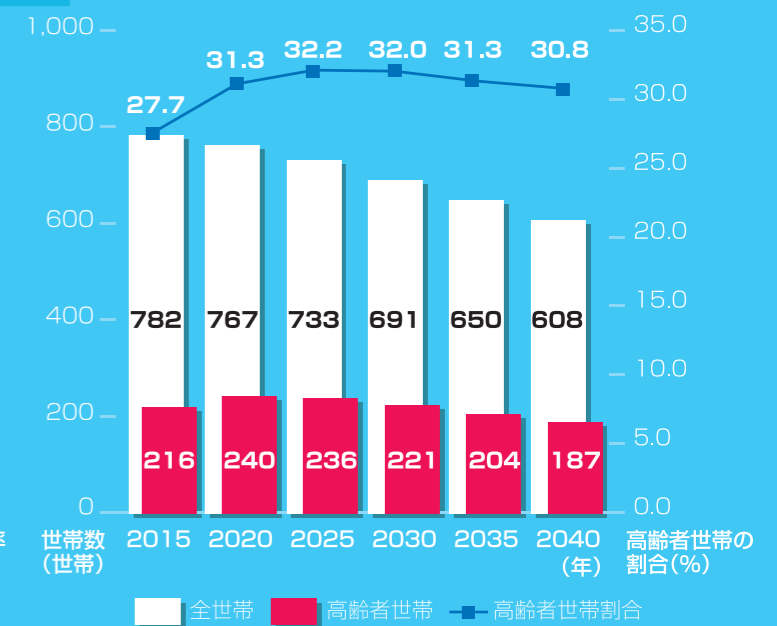
小岱山の麓に広がる府本地区。
荒尾を代表する伝統的工芸品、小代焼の窯元のほか、
賀庭寺の古塔群、たたら製鉄跡、梅尾城跡などの歴史的史跡などがある地域です。
自然資源にも恵まれ、全国で3カ所と言われるトキワマンサクの自生地のほか、
ホタルの発生地、桜、花菖蒲、ケイトウの名所があります。
農産物では金山スイカなどが知られています。



■年齢別人口推計



■世帯増減数推移



人口は2020年以降も減少する見込みで、2040年には、592人減少し1,446人となる見込み。
併せて高齢率が45.3%となる見込み。
人口減少に伴い、2040年までに世帯数も減少する見込み(▲159世帯)。

注) 小地域単位でコーホート要因法による推計を実施「準移動率」「子供女性比」「0-4歳性比」の各パラメーターは国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口の仮定値(荒尾市)を使用
人口推計は平成27年国勢調査、世帯推計は2015年が平成27年国勢調査、2020年以降が平成22年国勢調査に基づく
資料) 国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツールV2(H27国調対応版)」及び「将来人口・世帯予測プログラム(バージョン1.3)」を用いた計算結果を加工して作成

府本地区 資源マップ

府本地区で開催したワークショップで、地区の自慢を地図に落とし込みました。点在している資源は、地区の皆さんの暮らしと心を支えています。

ワークショップとは

さまざまな立場の人が集まって、自由に意見を出し合い、お互いの考えを尊重しながら意見をまとめていく手法です。



凡例

- 主要道路
- 河川/池
- 宅地など
- 田・畑など

トキワマンサク



小岱山

府本地区 魅力と課題

府本地区の皆さんと、地区について考えたワークショップでは、日頃から感じている、地区の困りごと(課題)や地区の自慢(魅力)について、意見を出し合いました。多くのご意見をいただいた中で、地区の皆さんが特に重視している課題や、地区ならではの魅力と考えているものをあげてもらいました。

課題

1 交通アクセスと道路の整備

- ・公共交通機関が足りない
- ・道が狭く、救急車も入らない
- ・登下校の道が悪い

府本地区は山手にあり、バスなどの公共交通機関が少ないことが課題にありました。さらに、狭い道や整備されていない道もあり、救急時の対応や登下校の子どもたちが心配という意見ができました。



2 地域コミュニティの維持

- ・地域のコミュニティが維持できていない
- ・役員のなり手が少ない
- ・子どもが少ない

全市的に高齢化が進む荒尾市ですが、中でも府本地区は高齢化率37.1%で市内2位の高齢化率です。若い住民が少なく、高齢者が多くなった地域では、自治会役員や民生委員など、地域を支える役割を担ってくれる人が極めて少ない現状です。役員の負担軽減や若い人たちをどのように巻き込んでいけるかが課題です。



3 その他

- ・樹木が管理できていない
- ・農業後継者不足

府本地区では空き家や空き地が多く、樹木や草木の管理ができていないことが課題にありました。また、農業が主要産業であり、特産品もあることから農業の後継者不足も課題になりました。

魅力

1 小岱山

- ・小岱山の自然と文化
- ・小代焼
- ・府本の自然(トキワマンサクなど)

小岱山は古くから府本地区だけでなく荒尾市の住民の心の拠り所になっています。小岱山の麓に広がる府本地区では、特に小岱山を誇りと感じている人が多いです。小岱山には、全国に3カ所しかないトキワマンサクの自生地や、伝統的工芸品に指定されている小代焼など、ここにしかない自然と文化があります。



2 史跡

- ・賀庭寺を含む史跡
- ・府本の伝統

山間地にある府本地区には、寺社仏閣など多くの史跡が点在しています。なかでも賀庭寺は、平重盛の祈願寺として立てられた古刹。今も残る五輪塔118基などが熊本県の重要文化財に指定されています。また、かたばら市など歴史のある行事など、伝統的な行事も自慢の一つです。

3 府本小学校

- ・府本小
- ・府本小の茶畑

府本小学校は、府本地区と共に地域を支える存在です。子どもたちとの交流や小学校を巻き込んだ行事の開催などは、地区住民のつながりをつくる重要な機会になっています。府本小学校には、昔から受け継がれている茶畑があり、毎年の茶摘みは、小学校、地域、双方にとって大切な行事です。

4 その他

- ・食べ物が美味しい(みかん、米、スイカ)

小岱山麓に広がる府本地区には、おいしい農産物がたくさんあります。特に金山地区で栽培されている金山スイカは有名で、ほかにもみかんや米などが栽培されています。

八幡地区 全体の方針

地区の課題を解決し、資源を生かしてどんな地域を目指すか。ワークショップでは住民の皆さんが思い描く八幡地区の未来について意見を出してもらいました。目指す姿の実現に向け引き続き住民で意見を出し合いながら、今後、具体的な取組みを考えていきます。活動への積極的な参加など取組みへのご協力をお願いします。

伝統に息づく、心安らく“絆”のまちづくり



目指す姿 1

「つながりあう」まち

笑顔があふれるまちを目指して、お互いを認め合い助け合って挨拶がかわせる地域社会と、楽しい参加型の催しをつくりましょう。



目指す姿 2

「安心・安全」なまち

災害や事故に対し、安心・安全な住みやすい地域ができるよう、河川や生活道路の整備、清掃や美化活動、見守り活動を進めましょう。



目指す姿 3

「暮らしやすい」まち

買い物や通院など外出できる、暮らしやすい地域を求めて、公共交通の充実、子どもから高齢者まで集える場所、若い世代が住めるまちを求めていきましょう。



目指す姿 4

「地域の宝を活用する」まち

荒尾梨や赤田公園、のぼらさんの伝統や古墳など地域の宝を大切に育てていきましょう。自然を生かした桜並木、遊歩道の整備、地域の宝の再発見などを進めましょう。



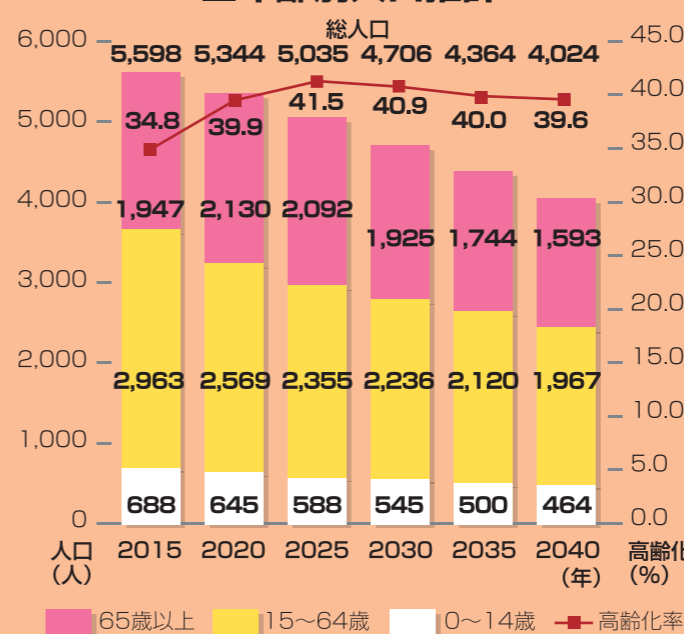
令和2年度～令和7年度 荒尾市地区別計画

八幡地区 Yahata area

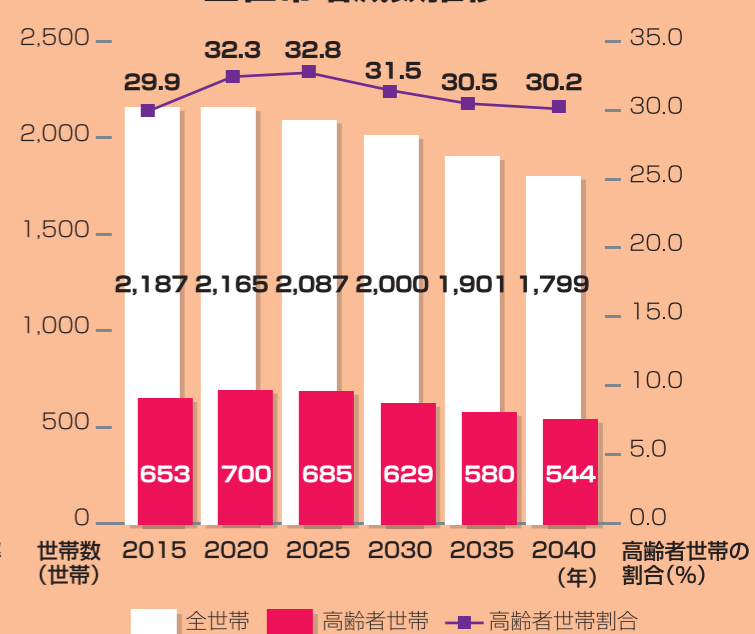
荒尾を代表するお祭り「のぼらさん」で知られる野原八幡宮。八幡地区はそのお膝もとにあります。荒尾梨の畑も広がり、小袋焼の窯元や古墳など古くから続く伝統が残っています。小袋工芸館があり商業地にも近く、新しい住宅地の開発も進んでいます。



■年齢別人口推計



■世帯増減数推移



人口は2020年以降も減少する見込みで、2040年には、1,320人減少し4,024人となる見込み。併せて高齢化率が39.6%となる見込み。人口減少に伴い、2040年までに世帯数も減少する見込み(▲366世帯)。

注) 小地域単位でコーホート要因法による推計を実施「準移動率」「子供女性比」「0-4歳性比」の各パラメーターは国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口の仮定値(荒尾市)を使用人口推計は平成27年国勢調査、世帯推計は2015年が平成27年国勢調査、2020年以降が平成22年国勢調査に基づく資料) 国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツールV2(H27国調対応版)」及び「将来人口・世帯予測プログラム(バージョン1.3)」を用いた計算結果を加工して作成

八幡地区 資源マップ

八幡地区で開催したワークショップで、地区の自慢を地図に落とし込みました。点在している資源は、地区の皆さんの暮らしと心を支えています。

ワークショップとは

さまざまな立場の人が集まって、自由に意見を出し合い、お互いの考えを尊重しながら意見をまとめていく手法です。



金社八幡宮



野原八幡宮



田園風景



梨の花風景



八幡地区 魅力と課題

八幡地区の皆さんと、地区について考えたワークショップでは、日頃から感じている、地区の困りごと(課題)や地区の自慢(魅力)について、意見を出し合いました。多くのご意見をいただいた中で、地区の皆さんが特に重視している課題や、地区ならではの魅力と考えているものをあげてもらいました。

課題

1 通学路、道路の危険

- ・道路が狭く緊急車両が入れない
- ・通学路の道が狭く、学校前は歩道がないのに交通量が多い、車の抜け道になっている、通学路に草木が茂っている
- ・道路標識が老朽化して見えない
- ・近所のお家の木の枝が道路に垂れている

多くの住民が道路に関する問題を感じています。緊急車両が入れない道路や通学路など、交通量が多いのに狭い道路が各所に存在しています。



2 地域のつながり

- ・行事に出てこない、無関心
- ・高齢で地域活動作業に出てこれない
- ・人のつながりが薄く情報交換が少ない

新しく入る住民とのつながりをつくる手段がないことは、地域コミュニティの大きな課題です。特に自治会役員など地域を支える人材が不足しています。

3 暮らしの不便

- ・病院が不足
- ・バス停が遠い
- ・スーパーが少ない
- ・公共交通手段が不足

商業地域に近いとはいえ、病院や買い物の場所、バス停などは高齢者には遠く、不便を感じる場面が多くあります。

4 その他

- ・雑草、樹木管理不足
- ・下水処理場からの悪臭
- ・リサイクル分別違反
- ・若い人を残すための企業誘致

樹木管理や下水処理場の問題など、地域環境の悪化を課題にあげる人が多くありました。

魅力

1 のぼらさん(野原八幡宮)

- ・お祭り
- ・桜、藤棚がきれい
- ・伝統芸能「風流」「節頭」
- ・桜と歴史

熊本県の重要無形民俗文化財にも指定されている野原八幡宮大祭「のぼらさん」。770年以上口伝で伝えられた「風流」は、少年が舞う姿の愛らしさに多くの人で賑わいます。



2 荒尾梨

- ・販売所がある
- ・梨の花がきれい
- ・荒尾の宝、梨山
- ・梨の花ウォーク

熊本を代表する農産物の一つが荒尾梨です。味の良さはもちろん、初夏に白い花がさく梨畑の風景も、荒尾市の宝物と感じられています。



3 赤田公園

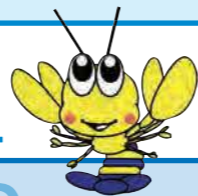
- ・桜がきれい
- ・釣りができる
- ・ふるさと公園

加藤清正の家臣である中島八右衛門によって造られた赤田池。池の周辺に広がる自然公園は、水のレジャーだけでなく、四季折々の自然で市民の心を癒やしています。

有明地区 全体の方針

地区の課題を解決し、資源を生かしてどんな地域を目指すか。ワークショップでは住民の皆さんが思い描く有明地区の未来について意見を出してもらいました。目指す姿の実現に向け引き続き住民で意見を出し合いながら、今後、具体的な取組みを考えていきます。活動への積極的な参加など取組みへのご協力をお願いします。

みんなが「集う」、「住みたくなる」まち



目指す姿 1

「暮らしやすい」まち

交通や買い物の便がよだけでなく、子どもたちが安全に通学できるまちにしていくことで、誰でも暮らしやすいまちをつくりま



目指す姿 2

「地域交流が盛ん」なまち

働き盛りの世代や老人会など、地区を支えるさまざまな組織が活発に動き、積極的に地域活動に参加できる環境をつくりま



目指す姿 3

「後継者がいる」まち

農業や商店などの後継者があり、産業が盛んな地域には、子どもたちが成長し、かえってきたくります。さらに、転入してくる人を受け入れる寛容さをもった地域をつくりま



目指す姿 4

「環境がよい」まち

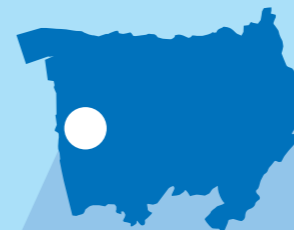
ゴミのポイ捨てや公園、街路樹の整備などを地域で積極的にすすめていきます。さらに、空き地、空き家の管理にも取り組み、子どもや高齢者も安心できる見守りのまちを目指し



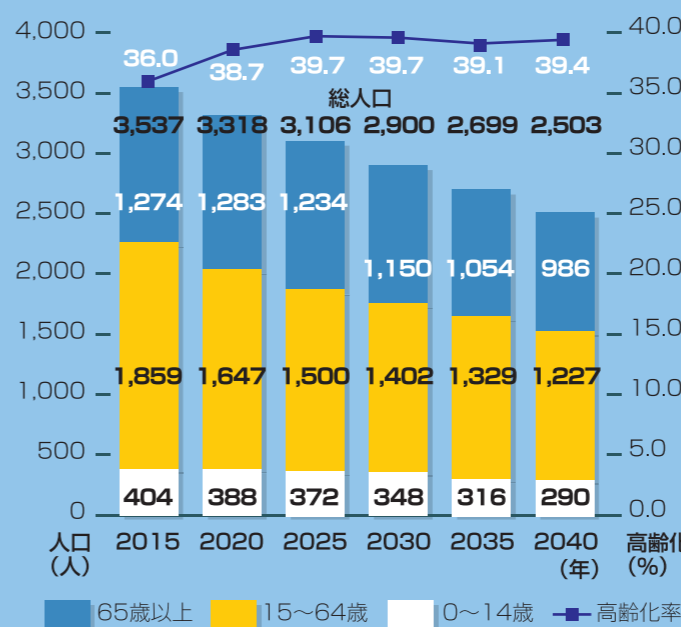
令和2年度～令和7年度 荒尾市地区別計画

有明地区 Ariake area

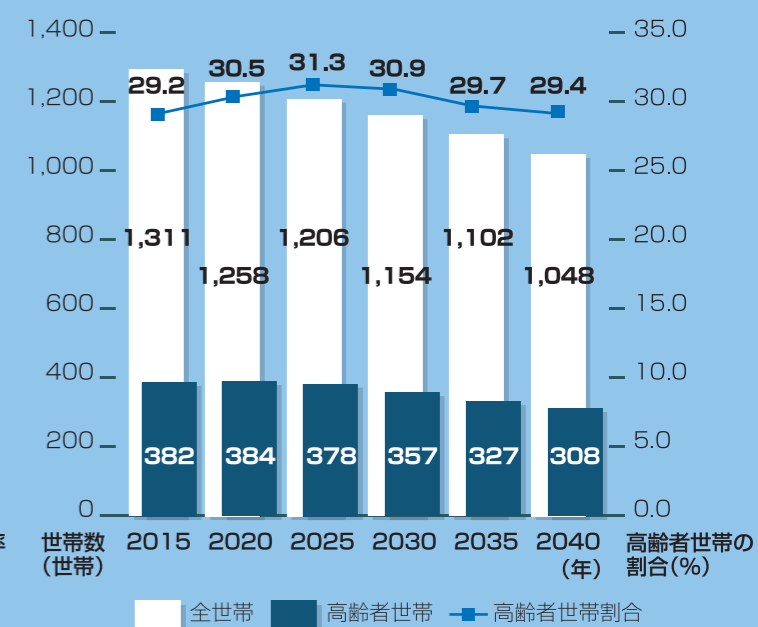
有明海に面し、JR鹿児島本線南荒尾駅を有する有明地区。荒尾干潟水鳥・湿地センターが開館し、ラムサール条約に登録された荒尾干潟を学ぶ玄関口の地区となりました。



■年齢別人口推計



■世帯増減数推移



人口は2020年以降も減少する見込みで、2040年には、815人減少し2,503人となる見込み。併せて高齢化率が39.4%となる見込み。人口減少に伴い、2040年までに世帯数も減少する見込み(▲210世帯)。

注) 小地域単位でコーホート要因法による推計を実施「準移動率」「子供女性比」「0-4歳性比」の各パラメーターは国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口の仮定値(荒尾市)を使用人口推計は平成27年国勢調査、世帯推計は2015年が平成27年国勢調査、2020年以降が平成22年国勢調査に基づく資料) 国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツールV2(H27国調対応版)」及び「将来人口・世帯予測プログラム(バージョン1.3)」を用いた計算結果を加工して作成

有明地区 資源マップ

有明地区で開催したワークショップで、地区の自慢を地図に落とし込みました。点在している資源は、地区の皆さんの暮らしと心を支えています。

ワークショップとは

さまざまな立場の人が集まって、自由に意見を出し合い、お互いの考えを尊重しながら意見をまとめていく手法です。



有明地区 魅力と課題

有明地区の皆さんと、地区について考えたワークショップでは、日頃から感じている、地区の困りごと(課題)や地区の自慢(魅力)について、意見を出し合いました。多くのご意見をいただいた中で、地区の皆さんが特に重視している課題や、地区ならではの魅力と考えているものをあげてもらいました。

課題

- ### 1 人不足・役員不足
- ・区の後継者がいない
 - ・有明公園の草刈りボランティアが難しい(新しい草刈り機が欲しい)
 - ・老人会の活性化

他の地区同様、人不足、役員不足は有明地区の大きな課題です。高齢化率36.0%と荒尾市で4位で、老人会の活性化なども課題にあげられました。



2 暮らしに不便・道路整備・空き家問題

- ・空き家・空き地が多い
- ・お店が少ない
- ・通学路が危ない、道が狭い
- ・一部橋が危ない(歩道がない)

有明地区のH30末時点の空き家数は81軒(目視調査で空き家と判定された家)です。また、空き家問題だけでなく、通学路や歩道などが狭いところや、整備されておらず危ないところがあることが指摘されました。



魅力

- ### 1 有明海・海
- ・荒尾干潟水鳥・湿地センター
 - ・豊かな海(夕陽が綺麗)
 - ・海の美術館

地区の名前でもある「有明」の海は、地区住民の心の拠り所です。荒尾八景の一つでもある荒尾の夕陽は、市外にも知られる絶景。また、堤防に住民が絵を描く地域活動「海の美術館」は、有明元気づくり活動として2005年から行われている活動です。



- ### 2 地域活動
- ・地域のまとまりが良い(地域活動)
 - ・有明公園(ふれあい祭り)

有明公園でもお祭りや、海の美術館などにも代表される地域活動が盛んな有明地区。地域のまとまりがよく、自主的に活動する人も多い地域です。

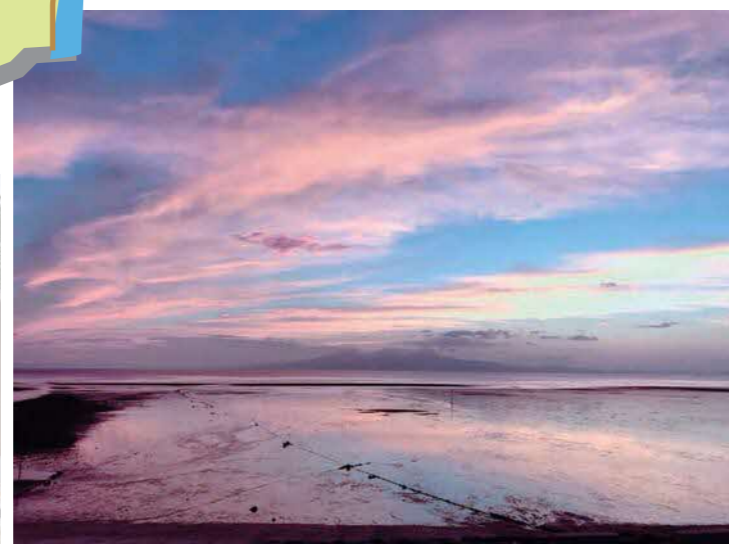


- ### 3 史跡・施設
- ・猫宮神社
 - ・有明小学校

地域活動の場にもなっている有明小学校や、猫伝説が残る猫宮神社(猫大明神)など、地域に愛される施設や史跡があります。



荒尾干潟水鳥・湿地センター

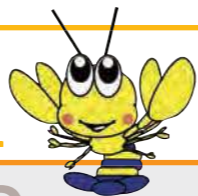


有明海の干潟

清里地区 全体の方針

地区の課題を解決し、資源を生かしてどんな地域を目指すか。
ワークショップでは住民の皆さんが思い描く清里地区の未来について意見を出してもらいました。
目指す姿の実現に向け引き続き住民で意見を出し合いながら、
今後、具体的な取組みを考えていきます。
活動への積極的な参加など取組みへのご協力をお願いします。

若い人が帰ってくる、高齢者と支えあう、「やさしい」「元気な」まち



目指す姿 1

「人に優しく支え合う」まち

高齢者と若い人の交流があると共に、生活基盤を充実させることで、困りごとがない、支え合いのまちをつくりまします。イベントで地区内での交流も促し、住民がいつまでも元気でいられるような地区を目指します。



目指す姿 2

「子どもたちが帰ってくる」まち

一度、地区外に出た子どもたちが、成長して家族をもち、清里地区に帰りたと思うようなまちを目指します。教育環境の充実や地域での子育て支援などを行っていきます。



目指す姿 3

「資源を活用する」まち

空き家や地域の公園などを活用し、より住みやすい環境づくりを行います。



目指す姿 4

「産業がさかん」なまち

清里地区を支える工業と農林水産業。農地の集積や稼げる農水産物づくり、空き家を活用した店舗の誘致など、積極的な動きで地域の産業を盛り上げます。



令和2年度～令和7年度

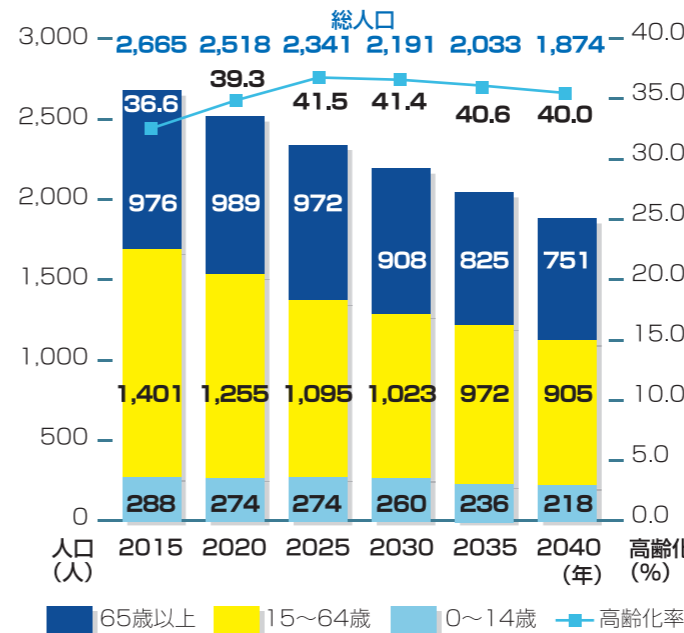
荒尾市地区別計画

清里地区 Kiyozato area

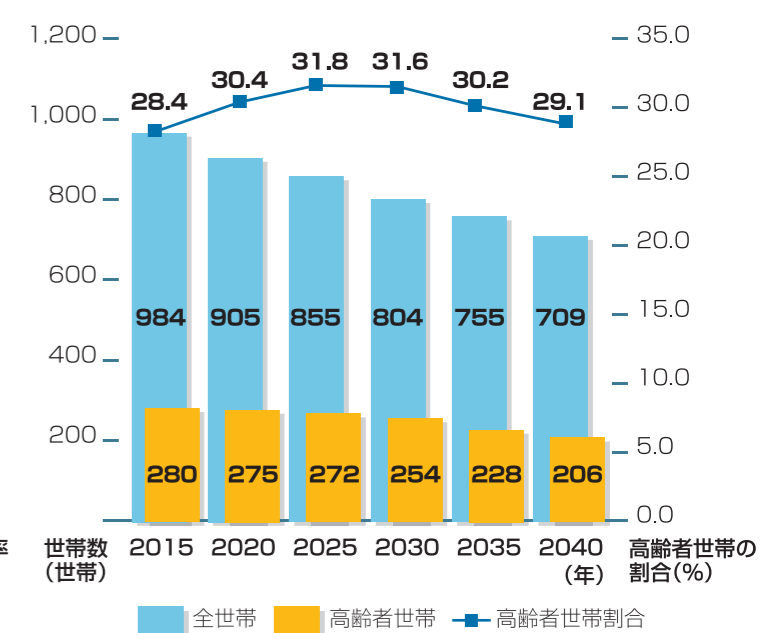
干潟で有名な有明海・松林の景観をはじめ2つの工業団地を有する清里地区は、世帯数が増加傾向にあります。オリーブ園やバイオマス発電所など、新しい産業の動きもあります。清里小学校との交流も深く、子どもたちと共に行う地域行事もあります。



■年齢別人口推計



■世帯増減数推移



人口は2020年以降も減少する見込みで、2040年には、644人減少し1,874人となる見込み。併せて高齢化率が40.0%となる見込み。
人口減少に伴い、2040年までに世帯数も減少する見込み(▲196世帯)。

注) 小地域単位でコーホート要因法による推計を実施「準移動率」「子供女性比」「0-4歳性比」の各パラメーターは国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口の仮定値(荒尾市)を使用
人口推計は平成27年国勢調査、世帯推計は2015年が平成27年国勢調査、2020年以降が平成22年国勢調査に基づく
資料) 国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツールV2(H27国調対応版)」及び「将来人口・世帯予測プログラム(バージョン1.3)」を用いた計算結果を加工して作成

清里地区 資源マップ

清里地区で開催したワークショップで、地区の自慢を地図に落とし込みました。点在している資源は、地区の皆さんの暮らしと心を支えています。

ワークショップとは

さまざまな立場の人が集まって、自由に意見を出し合い、お互いの考えを尊重しながら意見をまとめていく手法です。



荒尾干潟

清里地区 魅力と課題

清里地区の皆さんと、地区について考えたワークショップでは、日頃から感じている、地区の困りごと(課題)や地区の自慢(魅力)について、意見を出し合いました。多くのご意見をいただいた中で、地区の皆さんが特に、重視している課題、地区ならではの魅力と考えているものをあげてもらいました。

課題

1 生活が不便

- ・公共交通が不便 (バスの本数が少ない)
- ・買い物する場所がない。車がないとできない。
- ・道路が狭く、ごみ収集車が家の近くに来ないので、ごみ出しが大変 (遠い)

公共交通の便や買い物の場など、生活インフラの不便さは地区の大きな課題となっています。さらに、ゴミステーションの位置についても、不便を感じている人がいます。



2 道路・防犯灯の整備

- ・長洲板金の点滅信号機、事故もある
- ・防犯灯が少ない

事故が多い道路や渋滞する道路などがあり、地域住民が暮らしの中で危険を感じる場面があることがあげられました。防犯灯の少なさも課題になりました。

3 その他

- ・沿岸道路を延ばす
- ・役員の後継者がいない

地域を支える役員の後継者不足は、他地区同様大きな課題の一つとしてあがりました。清里地区は世帯数は増加していますが、移住した住民をどのように地域活動に巻き込むかが問題になっています。



魅力

1 自然が豊か

- ・干潟、夕陽がきれい
- ・海が見える、夕陽が綺麗、鳥がいっぱい
- ・ホテル

水源地を有する清里地区は、公園や森なども多く、ホテルも生息する豊かな自然が残っています。海手を望めば、有明海に沈む夕陽も風景も見られます。



2 小学生がいい

- ・子どもの仲が良い (清里小)
- ・小学生が挨拶してくれる

長く地区に住んでいる住民も多く、子どもたちと地域住民の交流が盛んです。校区の運動会や球技大会なども一緒に楽しんでいます。



3 施設/史跡がある

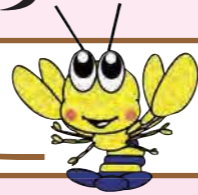
- ・二の宮八幡宮 (高浜)
- ・警察署・温泉・病院がある

高浜地区の氏神でもある二の宮八幡宮など、地域住民の心のよりどころとなる史跡が点在しています。さらに、地域の暮らしを守る警察署のほか、病院や温泉などもあります。

桜山地区 全体の方針

地区の課題を解決し、資源を生かしてどんな地域を目指すか。
ワークショップでは住民の皆さんが思い描く桜山地区の未来について意見を出してもらいました。
目指す姿の実現に向け引き続き住民で意見を出し合いながら、
今後、具体的な取組みを考えていきます。
活動への積極的な参加など取組みへのご協力をお願いします。

「住む」のに魅力あるまち



目指す姿 1

「便利な」まち

車がなくても、買い物できる商店があったり、暮らしに便利なまちを目指します。



目指す姿 2

「安心な」まち

治安が良いだけでなく、地域のコミュニティを確立し、つながりを強化。高齢者を住民が積極的に支え、だれもが安心して暮らせるまちをつくりま



目指す姿 3

「活気ある」まち

地域の行事を積極的に行うことで、活気あるまちを目指します。働く場所をつくり、若い世代が帰ってきやすい環境をつくることで、魅力のあるまちをつくりま



目指す姿 4

「見守る」まち

大人も子どもも笑顔で挨拶を交わすことで地域のつながりを強化します。子どもたちも地域のためのボランティアに参加する仕組みをつくり、みんなの幸せを考える人が多い地域を目指します。



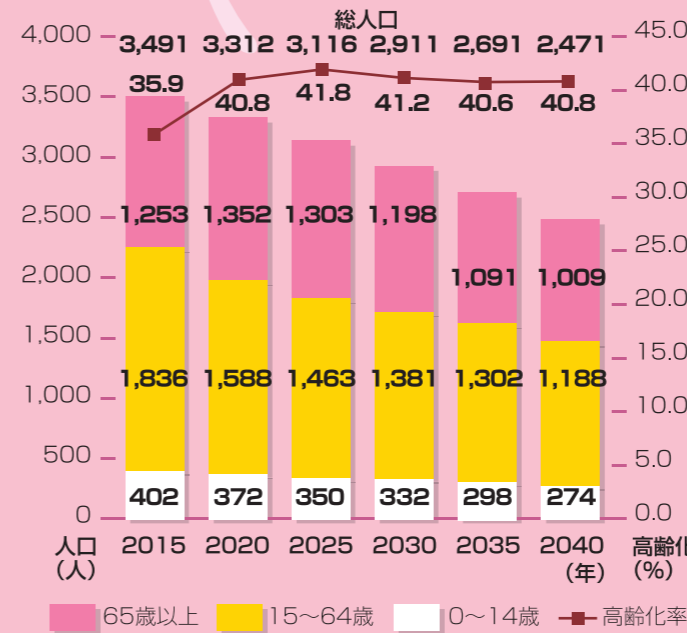
令和2年度～令和7年度 荒尾市地区別計画

桜山地区 Sakurayama area

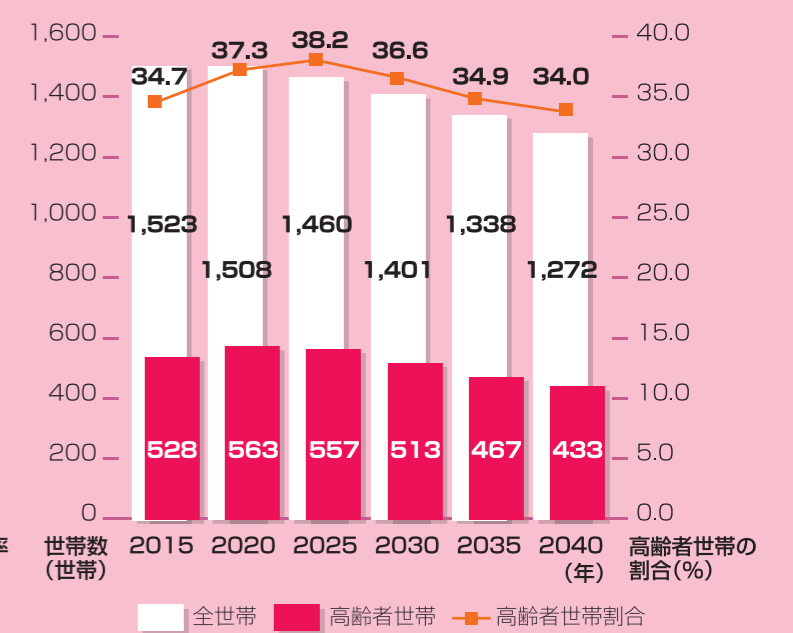
住宅地として整備され、区画整理も進んでいる桜山地区。
美化活動や生活支援ボランティア、防犯パトロールなど、地域活動が盛んな地域です。
住宅地でありながら豊かな自然も残っており、ウォーキングコースやトレーニングコースも整備されています。



■年齢別人口推計



■世帯増減数推移



人口は2020年以降も減少する見込みで、2040年には、841人減少し2,471人となる見込み。
併せて高齢化率が40.8%となる見込み。
人口減少に伴い、2040年までに世帯数も減少する見込み(▲236世帯)。

注) 小地域単位でコーホート要因法による推計を実施「準移動率」「子供女性比」「0-4歳性比」の各パラメーターは国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口の仮定値(荒尾市)を使用
人口推計は平成27年国勢調査、世帯推計は2015年が平成27年国勢調査、2020年以降が平成22年国勢調査に基づく
資料) 国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツールV2(H27国調対応版)」及び「将来人口・世帯予測プログラム(バージョン1.3)」を用いた計算結果を加工して作成

桜山地区 資源マップ

桜山地区で開催したワークショップで、地区の自慢を地図に落とし込みました。点正在している資源は、地区の皆さんの暮らしと心を支えています。

ワークショップとは

さまざまな立場の人が集まって、自由に意見を出し合い、お互いの考えを尊重しながら意見をまとめていく手法です。



- 凡例**
- 主要道路
 - 河川/池
 - 宅地など
 - 田・畑など

桜山地区資源

- 1 桜山小学校
- 2 三段池・ホテル・カモ
- 3 西公園・桜
- 4 散歩コース
- 5.6 いきいきサロン
- 7 自然のウォーキングコース



散歩コース



桜山小学校

桜山地区 魅力と課題

桜山地区の皆さんと、地区について考えたワークショップでは、日頃から感じている、地区の困りごと(課題)や地区の自慢(魅力)について、意見を出し合いました。多くのご意見をいただいた中で、地区の皆さんが特に重視している課題や、地区ならではの魅力と考えているものをあげてもらいました。

課題

1 人手不足・連携不足

- ・地域活動に消極的。
- ・地域内で連携ができていない
- ・民生委員・行政協力員などの高齢化(高齢化率 35.9%/市内5位)
- ・住まいはあるが、住民票が他地域という住民世帯があり、町内会に入らない

1970年代に整備された住宅地、桜山地区は高齢化率35.9%と高齢化がすすみ、単独世帯率が32.0%と荒尾市で最も高くなっています。若い世代には地域活動に消極的な人も多く、地区を支える役員の高齢化も大きな問題になっています。

2 リサイクル・ゴミ出し

- ・リサイクル当番、
- ・ゴミ出しルールが徹底されていない

地区環境を美しく保つためには、リサイクル活動やゴミ出しのマナーなどを、住民1人ひとりが守ることが重要です。一部の住民のマナーの悪化を、他の住民のボランティア活動でカバーしていることが課題に上がりました。



3 その他

- ・空き家による災害が心配
- ・商店がない

桜山地区のH30年末時点の空き家数は37軒(目視調査で空き家と判定された家)。解体が必要、または解体が今後必要となる老朽危険は3軒と少ないものの、空き家の増加は火事などの災害の原因になるのではないかと心配されています。地区内に商店がなく、買い物などが不便なことも課題となりました。

魅力

1 住民・ボランティアの活躍

- ・町内会長が若い
- ・高齢者が頑張っている(活動に参加)
- ・ボランティアで管理されている綺麗な花壇

新しいまちを作ってきた住民は、地域愛にも溢れています。若い町内会長が地域を支えていたり、高齢者が地域活動を頑張るなど、住民の地域活動が盛んです。

2 桜

- ・桜山という地区名が良い
- ・西公園(ぞうさん公園)の桜が綺麗

桜の名所となっている公園があるだけでなく、地区の名前にも入っている「桜」は地域住民の誇りにもなっています。



3 その他

- ・郵便局・コンビニがある
- ・三段池にホテルがある

生活する上で便利な郵便局とコンビニエンスストアが地区内にあり、暮らしやすい環境にもなっています。また、自然が豊かな地区であることを表すホテルの生息地も存在しています。

